

083270-000-9

特27-519

英文法の覚え方 上巻

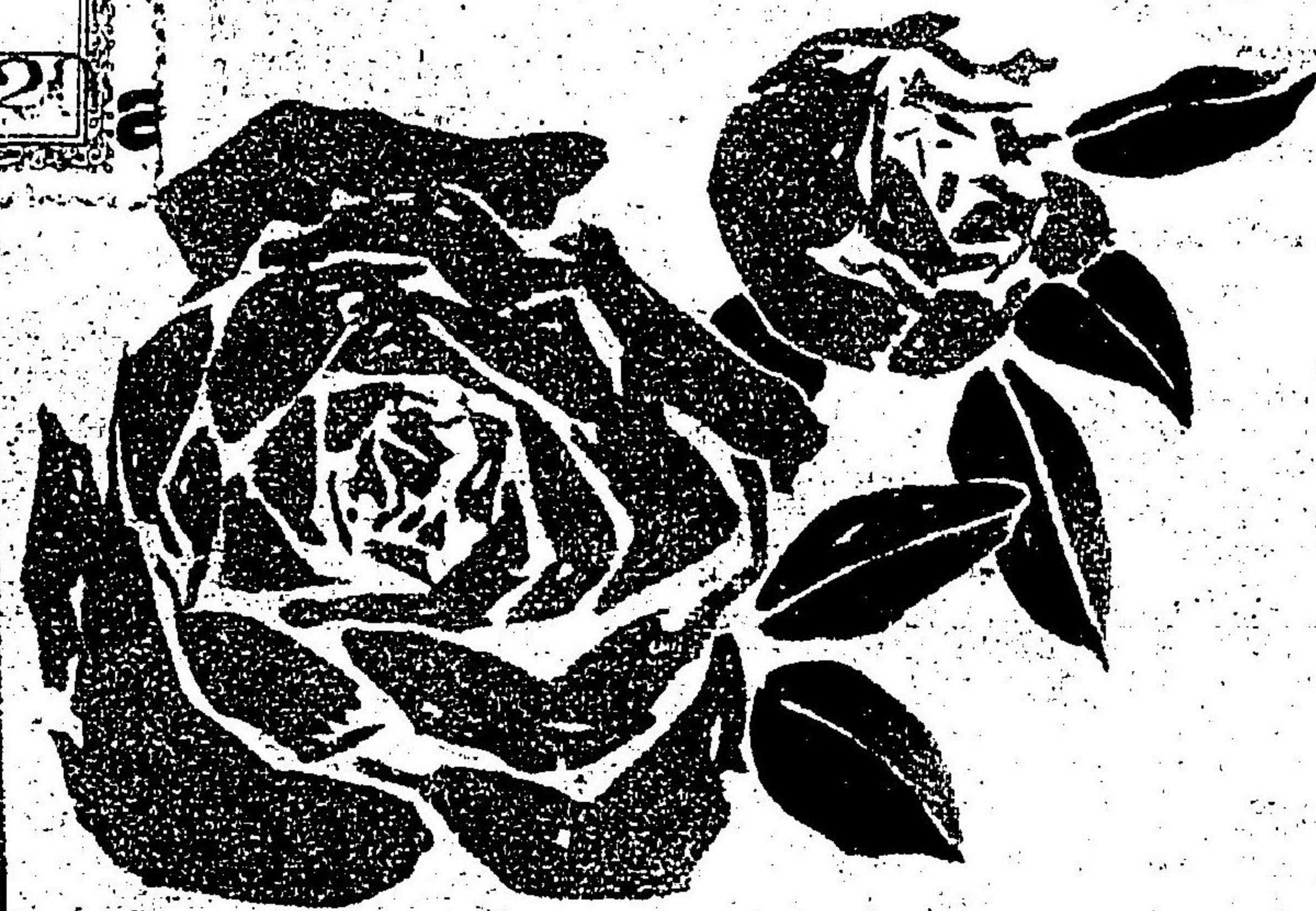
若月 保治/著

M44

DAH-0760



B3
2321



初等英文叢書第貳篇

新釋 英文法の覚え方

上巻

NEW
ENGLISH GRAMMAR.

30
232(a)

特27
519

文學士 若月保治 著

新釋 英文法の覚え方

上 卷

東京 文成社

昭和
44. 3. 21
肉夾

は し か き

一、此書は著者が其文法教授の経験から割り出した最も覚え易き方法によりて、主として獨習者にわかり易き様丁寧に、説明した英文法で有る。

一、程度は中學二年級の第三學期頃から、第三四年級位を標準にしたもので有る、けれども五年級程度のもので雖も一度之を讀過すれば、簡易なる英文法は統一的に咀嚼せられて、得る所蓋し甚だ大なるものが有るだらう。

一、此書は平生一讀し置かば、受験の際などには直に之を思ひ起すことを得て、非常に時間を儉約し得るのみならず便利なることに於て、他の英文法書に其比を見ぬもので有る。

一、分量に於て二冊にするの必要上、已むを得ず動詞を下卷に廻し副詞接續詞等を上卷に入れたので有る、決して他意あるのではない。

明治四十四年一月 著 者 識

上 卷 目 次

序論	1頁
第一章 Sentence (文章)	3頁
第一節 Elements of Sentences(文章の要素)	3頁
第一節の梗概	8頁
第二節 Classes of Sentences(文章の種類)	9頁
第二節の梗概	13頁
第三節 Object	14頁
第三節の梗概	17頁
第四節 Complement	18頁
第四節の梗概	21頁
第五節 Analysis of Sentences(文章の解剖)	22頁
第五節の梗概	26頁
第一章の梗概	27頁
第二章 Nonun(名詞)	30頁
第一節 Classes and Modifications of Nouns(名詞の種類及變化)	30頁
第二節 Number(數)	32頁
第二節の梗概	34頁
第三節 Case(格)	35頁
第三節の梗概	39頁
第四節 Gender(性)	40頁
第四節の梗概	43頁

第二章の梗概.....	43頁
第三章 Pronoun (代名詞)	45頁
第一節 Classes of Pronouns (代名詞の種類)	45頁
第二節 Modifications of Pronouns(代名詞の變化)...	46頁
第二節の梗概.....	48頁
第三節 Personal Pronoun	49頁
第三節の梗概.....	52頁
第四節 Possessive Pronoun	52頁
第四節の梗概.....	56頁
第五節 Adjective Pronoun	57頁
第五節の梗概.....	61頁
第六節 Relative Pronoun	62頁
第六節の梗概.....	65頁
第七節 Interrogative Pronoun	66頁
第七節の梗概.....	68頁
第三章の梗概.....	68頁
第四章 Adjective (形容詞)	72頁
第一節 Classes of Adjective (形容詞の種類)	72頁
第二節 Pronominal Adjective	74頁
第二節の梗概.....	78頁
第三節 Quantitative Adjective	79頁
第三節の梗概.....	81頁
第四節 Numeral Adjective	82頁
第四節の梗概.....	85頁

第五節 Qualifying Adjective	86頁
第六節 Comparison	88頁
第六節の梗概.....	95頁
第四章の梗概.....	96頁
第五章 Article (冠詞)	100頁
第一節 Classes of Article (冠詞の種類)	100頁
第一節の梗概.....	102頁
第二節 Indefinite Article	102頁
第二節の梗概.....	104頁
第三節 Definite Article.....	105頁
第三節の梗概.....	107頁
第四節 Proper Noun and Article	108頁
第四節の梗概	111頁
第五節 冠詞の省畧.....	113頁
第五節の梗概	115頁
第五章の梗概	116頁
第六章 Adverb (副詞).....	120頁
第一節 Classes of Adverbs 副詞の種類	120頁
第一節の梗概.....	124頁
第二節 Comparison (比較法).....	126頁
第二節の梗概.....	127頁
第三節 Uses of Adverbs (用法).....	128頁
第三節の梗概.....	132頁
第六章の梗概.....	134頁

目	次
第七章 Conjunction (接續詞).....	137頁
第一節 Classes of Conjunction (接續詞の種類)	137頁
第一節の梗概.....	139頁
第二節 Uses (用法).....	140頁
第二節の梗概.....	141頁
第七章の梗概.....	141頁
第八章 Interjection (間投詞)	142頁

上 卷 目 次 終



新釋 英文法の覚え方 上卷

文學士 若 月 保 治 著

序 論

何れの國語でも同じことで有るが、先づ文法と云ふものが出来たの後に、話や文章と云ふものが出来たのではない。試にお互の話や文章を調べて見たら、其間に自ら統一があつて、自然に一定の法則が出来る様になつて居つた。物好きな人が居つて、それを一々調べて見た。そして法則や規則に編み上げて見た。かくして出来たものを文法（Grammer）と名けたので有る。

文法と云ふものは實に斯うして出来たもので有つて、言葉のない始めから出来て居て、人はこれに依つて話し始め文章を書き始めたのでないから、従つて澤山の話や文章の中には、非常に多くの例外が有る。英國語は殊に左様で有る。英文法（English Grammar）は實に此非常に例外の多い國語の法則の研究で有るから、頗る面倒な

もので有る。今の人先づ此面倒な文法を充分に覚えてから、逆に遡つて、正しく英語を話し英文を書かうと云ふので有るから、中々に骨の折れた事有る。それを殊に外国人の而も言葉の組立が全然異つた日本人がやらうと云ふのであるから、英語熟達が六ヶ敷いと云ふのは尤も有る。

さて英語の文法と云ふものは左ばかり六ヶ敷い面倒なもので有るから、之を記憶することは頗る難事有るが、それでも遣り方によつては大に之を覚え易くすることが出来る。其方法は二つあり、一つは即ち何人も云ふ所の實地に應用しつゝ、覚える方法有つて、讀本を使用する場合とか作文とか會話とかの際に、常に文法に注意する方法有るが、他の一つは文法の説明の仕方と記述の方法と有る。後者が即ち予が之より取らんとする所の方法有つて、又此書を編むに至つた所以有る。

第一章
SENTENCE (文章)
第一節
Elements of Sentences (文章の要素)

(1) 人間が互に話をする、或は手紙を書く、此等は皆自分の考を人に傳へんが爲有る。斯う云ふ風の一つのまとまつた考は皆 ^{センテンス} Sentence(文章)と云ふもので有る。

文章—纏まつた考即 ^{コンプリート} Complete ^{ソート} thought.

例へば He is weeping. とか、Birds fly. と云へば共に立派に纏つた一つの考有る、従つて立派な文章有る。

(2) 處が He is weeping. Birds fly.

の二文章について見るに、He と Birds は共に此話の題目有つて、is weeping と fly は共に其話題が何をして居るかを語つて居る、即ち此二つ共に話題の説明語である、文法では此話題を ^{サブジェクト} Subject と云ひ題目の説明語を ^{プレジケート} Predicate と云ふ、文章は實に此二つの主要素から出来て居る。

Sentence = Complete thought { Subject—話の題目
Predicate—題目の説明語

(3) けれども文章は必ずしも二つ若しくは三つの語から成つたものばかりではない。色々な語が集まつて出来るもので有つて決して Subject と Predicate ばかりで出来るものではない、Subject と Predicate は文章中の主要なる部分で有ると云ふに過ぎぬ。

今文章中に起る有ゆる語を類別して見ると次の九種になる

- | | | |
|---------------------------|---|--|
| 詞の種類
(Parts of Speech) | { | (a) 名詞 (Noun) <small>ナウン</small> |
| | | (b) 代名詞 (Pronoun) <small>プロナウン</small> |
| | | (c) 形容詞 (Adjective) <small>アドジエクチーフ</small> |
| | | (d) 副詞 (Article) <small>アーチクル</small> |
| | | (e) 動詞 (Verb) <small>ヴァーヴ</small> |
| | | (f) 副詞 (Adverb) <small>アドヴァーヴ</small> |
| | | (g) 接續詞 (Conjunction) <small>コンジャンクション</small> |
| | | (h) 前置詞 (Preposition) <small>プレポジション</small> |
| | | (i) 感歎詞 (Interjection) <small>インターヂェクション</small> |

此等の九種の詞を **Nine Parts of Speech (九品詞)** と云ひ、此等が **Subject** となり **Predicate** となり、又は色々な附屬となりて種々な文章が出来るので有る。

(4) 今大畧此等の九品詞は如何なもので有るかを見ると

(a) book と云ひ、water と云ひ、皆或る物の名で有る、此等を**名詞 (Noun)**と云ふ。

(b) 友人と差し向ひにて、伊藤と云ふ男について話し合ふ時、伊藤なる語を繰返し用ふる代りに“he”を用ふる時は便利である。he の外 I, you, we 等を**代名詞 (Pronoun)**と云ふ。

(c) 只花と云ふ代り pretty flower. と云ひ red flower. と云ふ時、pretty, red の如き詞を**形容詞 (Adjective)**と云ふ。

(d) a, an, the の三語を**冠詞 (Article)**と云ふ。

(e) Birds sing. と云へば sing は鳥の動作を表はして居る。此の如く物の動作や有様を表はす詞を**動詞 (Verb)**と云ふ、動詞が常に predicate になるので有る。

(f) Birds sing. の例にて、Birds sing sweetly. と云へば、sweetly は sing を形容して居る、かく動詞又は形容詞を形容する詞を**副詞 (Adverb)**と云ふ。

(g) you and I の如く you と I を結び付ける語を接續詞 (Conjunction) と云ふ。

(h) I am going to school. の to の如く名詞 school の前に在り、又は He gave it to me. の to の如く代名詞 me の前に在りて、他の詞即ち am going. 又は gave の如き詞との間に、如何なる關係が有るかを明に説明する語を前置詞 (Preposition) と云ふ。

(i) O! Alas! の如く感歎を表はす詞を感歎詞 (Interjection) と云ふ。

(5) 以上述べたる如く文章は凡て word (詞) の結合によりて成るので有るが、更に少しく考へて見ると一寸面白いことが有る。先づ

(a) A courageous man sometimes hesitates.

(b) A man of courage sometimes hesitates.

(c) A man who has courage sometimes hesitates.

と云ふ三文章に就いて見るに、意味は何れも一様に『勇氣の在る人が時々躊躇する』と云ふので有るが、三つとも『勇氣のある人』と云ふ字の組立方が異つて居る。是も皆詞 (word) と見ても差支ないが、courageous と of

courage と who has courage. と同じ意味で異つた形をもつて居るから、之を便宜上文法では別々の名を附するのが普通で有る。即ち of courage のやうな、只 word の集つたもので、まだそれ丈では文章らしくないものを ^{フレーズ}Phrase と云ひ、who has courage. の如く subject も predicate も有して居るが、未だ完全な文章と云へぬもの、即ち文章の様な形は有しながらも充分に文章たる資格のないものを ^{クローズ}Clause と云ふ。

して見ると文章の成分と云ふものは下の三つで有る

文章の成分	{	詞 word	
		熟字 phrase	(未だ文章をなすに至らざる詞の集合)
		句 clause	(文章の形を備ふるも獨立する能はざる不完全なる文章)

(6) 是に於てか文章の Elements は三様に見ることが出来る

Sentence	{	(a) Subject 及 Predicate より成る、
		(b) 9 Parts of speech より成る、
		(c) Word, phrase 及 clause より成る、

(7) 第一節の梗概

- (a) 文章——纏つた考 (Complete thought)
- (b) Sentence { subject—話の題目
 predicate—題目の説明語
- (c) 文章中の語を 9 Parts of speeches に分つ
 Nine parts of speeches.
 - 1. Noun—物の名
 - 2. Pronoun—名詞の代りになるもの
 - 3. Adjective—名詞代名詞を形容するもの
 - 4. Article—a, an, the.
 - 5. Verb—物の動作や有様を表はすもの
 - 6. Adverb—動詞形容詞を形容するもの
 - 7. Conjunction—詞と詞又は句と句を連結するもの
 - 8. Preposition—名詞代名詞の前に在りて他の詞との関係を示すもの
 - 9. Interjection—感歎を表はす詞
- (e) 文章の成分 { word—詞
 phrase—單に詞の集合
 clause—文章の恰好を有するも獨立する能はざるもの

(f) 文章の Element の三様の見方

- 1. Subject 及 Predicate より成る。
- 2. 9 Parts of speech より成る
- 3. Word, phrase, clause より成る

第二節

Classes of Sentences (文章の種類)

(8) 文章と云つても種々の種類が有るが先づ之を二様に大別することが出来る。

第一 Use 即ち用法より見たる分類

第二 Structure 即ち構造より見たる分類

(9) Use の點より分類する時は下の四に分る

(a) ^{デクラレーチーフ} Declarative sentence.

(b) ^{インタロガチーフ} Interrogative sentence.

(c) ^{インペラチーフ} Imperative sentence.

(d) ^{エクスクラマチーフ} Exclamative sentence.

(10) Declarative sentence は何でも有の儘に物事

を断定若しくは否定するもので有つて、普通の文章は皆之れで有る。

It is very warm to-day.

I did not go yesterday.

此文章の終には (.) 點即ちピリオドを附ける。

(11) 第二の Interrogative sentence と云ふのは凡て問ひの文章で有る。

Did you go yesterday?

處で其返事は Yes, I went. でも No, I did not. でも何れにしても Declarative sentence で有る。

此文の終にはインテローゲション・マーク即ち (?) 點を附ける。

(12) Imperative sentence は命令又は願望を表はす文章で有る。

Go.

Let him come.

此文章の終には (.) を附するが通例なれど時にエキスクラメーション・マーク (!) を附けて意味を強くすることも有る。

(13) Exclamative sentence は感歎を表はす文章で有る。

What a beautiful flower it is!

O! What shall I do!

How fine it is!

此文章の終には (!) を附す。

(14) ^{ストラクチャー} Structure 即ち構造の點より文章を分類すれば下の三つとなる。

(a) ^{シンプル} Simple sentence.

(b) ^{コンプレックス} Complex sentence.

(c) ^{コンパウンド} Compound sentence.

(15) Simple sentence は最も簡單なる文章で有つて subject と predicate が一つ宛より無きものを云ふので有る。

Birds fly.

The dog runs.

の如きは即ちそれで有る、The は predicate でも subject でもない、只 subject の附屬で有る。此様なものは幾ら附いて居ても差支なく、只 subject と predicate が各一つ

できへ有ればいゝ。故に必ずしも二語又は三語に限らず、
には長い長い數語から成つた simple sentence が有る。
ち

He told a story about a tiger.

も simple sentence で有る、subject は he で predicate は told
で有つて、他には subject も predicate もないからで有る。

(16) Complex sentence は、文章中に一つ若しくは
二つ以上の clause の有る文章で有る。

I saw a tiger when I was young.

此一文章中 when から以後は獨立することの出來ぬ
clause で有る。

(17) Compound sentence は、立派な獨立した二つ
の clause が結合したるもので有る。

The day was fine and the sea was calm.

and から前の部分と、後の部分とを別にしても、相方
立派に獨立することが出来るので有る。斯の如く and 又
は but などによりて連結されたる文章は皆此 compound
sentence で有る。

(18) 第二節の梗概

(a) Classes of sentence { I. Use の點より
II. Structure の點より

(b) Use(用法) の點より { 1. Declarative—有りの儘の記述をす
る文章
2. Interrogative—問を起すもの
3. Imperative—命令又は願望を表は
すもの
4. Exclamative—感歎の文章

(c) Structure (構造) の點より { 1. Simple—subject, predicate 一つ宛
のもの
2. Complex—文章として獨立出來ぬ
clause の有るもの
3. Compound—獨立したる二つの
clause の結合せるもの

第三節

Object. (目的)

(19) さて前に挙げた所の

Birds fly.

He is sleeping.

の二例に於ては、動詞は自分丈で其題目の動作又は状態を十分に説明し盡して居り、此等動詞の影響即實際の動作は更に他の詞に及ぶの必要がないけれども試に

(a) They killed.

(b) We like.

の二例に就いて見ると、(a) の方の killed は、此丈では They の動作を十分に説明し盡して居らぬ、「彼等が殺した」と云ふ丈では何を殺したのか分らぬ、犬を殺したとか何とか云ふ必要が有る。試に

They killed a dog.

と云へば、立派に了解が出来る。之れ killed の影響即ち殺すと云ふ動作が dog にまで及ぶからで有る。又 (b) の例を見ても

We like him.

とすれば、like の意味は明瞭で有る。斯の如く動詞の影響即實際の働きを蒙る所の詞を、其動詞の Object と云ふ。これには大概 Noun 又は Pronoun を用ふるのが普通で有る。

(20) 従つて次の表を挙げる事が出来る

Subject=話の題目

Predicate=題目を説明する詞

Object=動詞の影響即實際の働きを蒙る詞

けれども Object は動詞の働きを蒙り、動詞と合して Subject の完全な説明語をなすを以て、Predicate の一部分と見るのが普通で有る。

(21) 而して Object を要する所の動詞を Transitive verb (他動詞) と云ひ、Object の必要なき動詞を Intransitive verb (自動詞) と云ふ。動詞には此二つの種類が有る

Verb { Transitive verb=Object を要するもの
Intransitive verb=Object の必要なきもの

(22) 動詞の働きを蒙る詞は之を Object と云ふので有るが、Preposition (前置詞) の後に來る所の名詞代名

詞も之を Object と云ふ。例へば

(a) I am going to school.

(b) I gave a book to him.

(c) He arrived at Kobe.

上の三つの文章中の to や at は皆前置詞で有るから、其後に來た school, him, Kobe 等は皆夫々 Preposition の Object と云ふので有る。故に Object にも二種がある。

- Object { 1. 動詞の Object.
- 2. 前置詞の Object.

(23) Transitive Verb によりては時あつて二つの Object を取ることが有る

(a) I gave **him** a pen.

(b) I told **her** the story.

(a) の例に於て pen を與へたと云へば、pen は gave の Object なること勿論なるが、gave は詞の性質上更に誰に與へたかを説明する必要が有る。即ち him とか her とか、與へた人を表はすと意味が極めて明瞭で有る。(b) の例に於ても her を入れなければ全體の意味は不明瞭である。ところで him とか her とかの如く、必ず前にありて

人を表はし、間接に動詞の影響を受くるものを ^{インダレクト} Indirect Object といひ、story, pen の如く後にありて物を指して直接に動詞の影響の及ぶ詞は、前者に對して ^{アレクト} Direct Object と云ふ。

が此二つの例は、試に (22) の (b) の例に従つて書き改めて、

I gave a pen to **him**.

I told the story to **her**.

とせば、pen 及 story は勿論 Object なるのみならず、her 及 him も Object (此場合は Preposition の) なることが明で有らう。

Transitive Verb の { Direct Object.
 Double Object { Indirect Object.

(24) 第三節の梗概

- (a) 1. Subject—題目 } の外に
- 2. Predicate—題目の説明語 }
- 3. Object—動詞の働きを蒙り、動詞と合して完全なる Predicate をなすもの—They killed a dog の dog は kill と云ふ働を蒙る

即ち實際影響を受ける上に、killed 丈にては
分らぬ事柄を killed と一處になりて説明す

- (b) Verb { Object を要するもの—Transitive.
Object を要せぬもの—Intransitive.
- (c) Object { 1. Verb の Object.
2. Preposition の Object.
- (d) Transitive の中に二つの Object を取るものあり { Direct Object.
Indirect Object.

第四節

Complement. (補語)

(25) 前節に述べたる Object に似て非なるものに
Complement と云ふものが有る。形と位置とは甚しく類
似したるものなれど全く異つたもので有る。

- (a) I am.
- (b) He became.

上の二文章を見るに、共に不完全で有つて、何の事だ
か其意味が分らぬ。けれども試に此を

- (a) I am cold.
- (b) He became a soldier.

とすれば全體の意味は完全なものとなるので有る。所で
此 cold や soldier は、一見甚だ Object に似て居るが決して
Object ではない。He struck a soldier. と云へば、打つと
云ふ働きは、兵隊に及び、即ち兵隊は struck の影響を受
けて實際打たれたので有るが、I am cold. にては am の働
きは cold に及ぶのではない、只 cold は am の不足を補
ふて意味を明にするのみで有る。(b) に於ても became の
働きが soldier に及ぶのではない、became が不完全なる
爲に soldier を以て完全にするのである。そして cold は
I の體の有様を説明し、soldier は he と同人間を指して
居る。即 He struck a soldier. の場合とは大變に異り、此
soldier は Object なれど cold や今一方の例の soldier は
Object ではない、只不完全なる動詞の意味を補ふ爲に用
ふるもので有る。斯るものを ^{コンプレメント} Complement と云ふので
有る、Complement の意味は補ふの意で有る、

(26) 以上を表示すれば

Complement... { He became a *soldier*.
 (He と soldier は同一人)

Object { He struck a *soldier*.
 (He と soldier は別人)

即ち Complement の場合は He と soldier とが全然同一のもので有るが、Object の場合は別人で有る。

(27) 上の例に於ては Intransitive Verb の Complement のみを説いたので有るが、Transitive Verb が既に Object を有しながら猶 Complement を要することが有る。

即ち

I made a box.

は立派に其意を了解することを得れども、

I made him.

と云ふ丈にては、彼を何にしたか意味不明で有る、之に soldier を加へて

I made him a *soldier*.

即ち「彼を軍人にした」とすれば、意義自ら明で有る。所で soldier は made の Object ではない、Object は him で有る。soldier と云ふ語は、Object が有つても猶意味の

不完全なる動詞の意義を、補はんが爲の詞に過ぎぬ、即 Complement で有る、けれども此詞は him と同じ人で有つて、Object に關したもので有る。

(28) 以上の例に見たるが如く Complement にも二種類が有る。即ち

(a) He became a *soldier*.

(b) I made him a *soldier*.

の如く、(a)に於ては soldier は subject の He に關し、(b)に於ては soldier は subject に非ずして Object の him に關するもので有る、前者の如く Subject に關するを ^{サブゼクチャーヴ} Subjective Complement. 後者の如く Object に關するを ^{オブゼクチャーヴ} Objective Complement と云ふ。即ち

Complement { Subjective Complement.
 Objective Complement.

(29) 第四節の梗概

(a) Complement.—Object に似て非なるもの、即ち動詞の影響を受けず動詞の不足を補ふのみ

He became a *soldier*.—soldier は became の不足を補ふのみにて、其動詞より實際働きを蒙らず

即ち Complement. で有る、けれど

He struck a soldier.—soldier は打つと云ふ働きを

受ける、故に soldier は struck の Object.

- (b) Complement { He became a soldier.
(He と soldier 同一人).
- Object { He struck a soldier.
(He と soldier は別人).
- (c) Complement { Subjective—Subject に関するもの
(He became a soldier).
Objective—Object に関するもの
(I made him a soldier).

第五節

Analysis of Sentences. (文章の解剖)

(30) 是迄説き來つた所を考へて見ると、何れの文章にても

Bird fly. Boys play.

のやうな、Subject と Predicate 許りで出来たものは甚だ

少く、其多くは此他に澤山の詞を伴ふて居るのが普通で有る。處で下の文章

Many beautiful birds are singing sweetly
in the cage.

を解剖して見ると、Subject は birds で、many も beautiful も共に birds を形容する所の詞で有る。それから predicate は、are singing と云ふ動詞で有つて、sweetly も in the cage も共に動詞に附屬して之を説明する語である。斯の如く文章中の凡ての詞を解剖して見ると、皆 Subject 及 predicate と、此等をば形容する詞のみに歸するの
で有る。而して此等の Subject 及 predicate を形容する詞を ^{モディファイア} Modifier 又は ^{アヂヤンクト} Adjunct と云ひ、Subject にのみ附屬したものを Subject Modifier. Predicate に附屬したものを Predicate Modifier と云ふので有る。

- Sentence の解剖 { (a) Subject.
- (b) Predicate.
- (c) Subject Modifier.
- (d) Predicate Modifier.

(31) さて文章をなす所の此等の四つは、何より成るか
かと云ふと

(a) Subject は前にも述べた通りに Noun 又は
Noun と同等の價あるものより成る、即ち

The *dog* runs. (Noun)

It runs. (Pronoun)

How to do this is the question. (Phrase)

What he says may not be true. (Clause)

(b) Predicate は必ず動詞より成るので有るが、動
詞によりては Object 又は Complement を要するも
のあることは前述の通りで有る。

(32) 而して Object は Noun 又は Noun と同等の價
有るものなるべく、例へば

I saw a *boy*. (Noun)

I saw *it*. (Pronoun)

I do not know *how to reply*. (Phrase)

I know *what you mean*. (Clause)

(33) Complement は下の如く Noun でも Adjective
でも何れにても差支ない。

He is a *soldier*. (Noun)

I am *happy*. (Adjective)

(34) Object 又は Complement も Modifier を有つて
居ることが通例で有る、例へば

I saw a *big dog*.

a big は Object の dog を modify す

He is a *very rich* man.

very rich は Complement たる man の Modifier なり。

(35) Subject Modifier は凡て Adjective 又は之と同
様の價あるものより成る、即ち Clause でも Phrase でも
Adjective と同じ役目をするものは Subject Modifier とな
るのである。

The *cold* day is coming. (Adjective)

A woman *whose husband is dead* is called
a widow. (Clause)

(36) Predicate の Modifier は凡て Adverb の資格を
有つたものでなければならぬ。即ち Phrase でも Clause で
も Adverb の資格さへ有ればいゝ。

He came *yesterday*. (Adverb)

He did not come *this morning*. (Phrase)

I went home yesterday *before it was dark*.

(Clause)

(37) 第五節の梗概

- (a) Sentence を解剖すると
- 1. Subject—Noun 又は Pronoun.
 - 2. Predicate.
 - 3. Subject Modifier—Subject に
附属し之を形容するもの、即ち
Adjective と同じ價のもの
 - 4. Predicate Modifier—Predicate
に附属し之を形容するもの、即
ち Adverb と同じ資格のもの

- (b) Predicate
- 1. Verb の外次の二つを有するこ
とあり
 - 2. Object { Noun 又は
Pronoun
 - 3. Complement { Noun 又は
Adjective.

(c) Object 及 Complement も Modifier を有するこ
とがある。

(38) 第一章の梗概

(a) Sentence = 纏つた考 (Complete thought)

..... { Subject.
Predicate.

(b) 文章をなす語 = 九品詞 (9 parts of speech)

- 1. Noun. (名詞)
- 2. Pronoun. (代名詞)
- 3. Adjective. (形容詞)
- 4. Article. (冠詞)
- (c) 9 parts of speech { 5. Verb. (動詞)
- 6. Adverb. (副詞)
- 7. Conjunction. (接續詞)
- 8. Preposition. (前置詞)
- 9. Interjection. (感歎詞)

(d) 文章の成分 { Word. 語
Phrase 熟字
Clause 句

- (e) 文章要素の三つの見方
 - 1. Subject, predicate より成る
 - 2. 9 parts of speech より成る
 - 3. Word, phrase, clause より成る

- (f) 文章の種類
 - Use
 - 1. Declarative sentence.
 - 2. Interrogative sentence.
 - 3. Imperative sentence.
 - 4. Exclamative sentence.
 - Structure
 - 1. Simple sentence.
 - 2. Complex sentence.
 - 3. Compound sentence.

- (g) Verb
 - Transitive=Object を要するもの
 - Intransitive=Object の要なきもの

- (h) Object
 - 1. 動詞の影響即ち働きを受くるもの
 - 2. Preposition の後に來る詞

- (i) Double object of transitive verb
 - Direct object.
 - Indirect object.

- (j) Complement と Object との差別

Complement

- He became a *soldier*.
- (he と *soldier* は同一人にて *soldier* は became の働きを受けず)

Object

- He struck a *soldier*.
- (he と打たれた *soldier* は別人にて *soldier* は struck の打つと云ふ影響を受く)

(k) Complement

- Subjective complement. (He became a *soldier*).
- Objective complement. (I made *him* a *soldier*).

- (l) Sentence の解剖

Sentence

- 1. Subject (Noun, pronoun 等).
- 2. Predicate
 - Verb
 - Object
 - Noun.
 - Pronoun.
- 3. Subject modifier (Adjective 又は同等のもの)
- 4. Predicate modifier (Adverb 又は同等のもの)

第二章

NOUN (名詞)

第一節

Classes and Modification of Nouns.

(名詞の種類と變化)

(39) 名詞は下の五種に分つことが出来る

- I. ^{プロパー} Proper nouns (固有名詞) 一つの物や一人の人に附けたる特別の名にて、之を他に轉用することの出来ぬもの、England, Japan, Napoleon, Tenchosetsu, Tokyo, Hideyoshi 等皆之を他の物や人に再び用ふること出来ぬ名なり、勿論他の物や人に用ゐたりとて何人も拒むものなけれど、何れの山をも山と云ひ、何れの家をも家と云ふとは自ら異なるべし。
- II. ^{カンマン} Common nouns (普通名詞) 同じ種類の物や人ならば何れにも通じ得る名を云ふ、家と云へば何れの家も家にて、人と云へば何れの人も人なり、其人なり家なりに更に秀吉とか帝國大學とか特別に名前を

附けると固有名詞になるなり、他の例 city, general, boy, bird.

III. ^{コレクチヴ} Collective nouns (集合名詞) 物の中にも一つの物が澤山に集り更に別の名をなすことあり、其集合體の名が此名詞の中に入るなり、例へば army (軍隊), family (家族), people (人民), flock (羊の群), assembly (集會), nation (國民), fleet (艦隊) 等の如し。

IV. ^{マテリアル} Material nouns (物質名詞) 金銀の如く水の如く幾ら細かく碎くも其名の變らぬもの即物質に附けた名なり、gold, silver, water, sugar, flesh (肉), ink, wine, beer, sake (酒) 等皆然り。

V. ^{アブストラクト} Abstract nouns (抽象名詞又は無形名詞) 眼に見へぬもの、又は手に觸ることの出来ぬもの等五感によりて知ること出来ざれど、有りと丈は考へることの出来るものに附したる名前である、goodness (善), wisdom (智), love (愛), death (死), knowledge (智識), happiness (幸福), truth (眞), punishment (罰), reading (讀むこと), strength (力), 等無形のもの皆之に屬す。

(注意) 初學者はことに抽象名詞など云ふ解し悪

くき譯名を記憶せんことを努むるより成るべく原語にて覺ゆべし。

(40) Proper noun は必ず Capital Letter (大文字又は花文字と云ふ) を以て始めの一字を書かねばならぬ。

(41) 人名、地名、船の名、公けの建物の名 sun, moon 及 earth 以外の天體の名、月の名、曜日の名等は皆 proper noun とす。

(42) 名詞には下の三つの ^{モディフィケーション} Modification (變化) と云ふものが有る。

- | | |
|-----------------|------------|
| 3 Modifications | Number (數) |
| | Case (格) |
| | Gender (性) |

Modification とは詞が其用法に従つて色々と變へる所の變化を云ふのである。

第二節

Number. (數)

(43) 數とは名詞が一つのものを表はすか二つ以上のものを示すことを云ふ、其一つを表はす時を ^{シンギュラー} Singular

number (單數) 二つ以上を表はす時を ^{プルーラル} Plural number (複數) と云ふ、

Number	{ Singular—boy, bird.
	{ Plural—boys, birds.

(44) 五種類の名詞中 Material noun と Abstract noun は常に Singular にして article a を取ることなし

Proper noun は Singular が普通なり

Common noun と Collective noun は Singular, Plural 何れにも用ゐらる。

(45) Plural の作り方——一般に Singular noun の語尾に s 或は es を加へて作る—boy, boys; dish, dishes.

其中 es を取る場合

(a) 語尾 s, x, ch, sh の時

ass, asses (驢馬); box, boxes; inch, inches; brush, brushes (刷毛).

(b) 語尾 y にて其前に子音ある時は y を i に變じて es を附す、(y の前に母音ある時は只 s のみを附す)

fly,	fies (蠅);	baby,	babies;
lady,	ladies;	然し	(toy, toys).

(c) 語尾の f 又は fe は v に變じて es を加ふ

leaf, leaves (葉);	wolf, wolves (狼);
life, lives (生命);	shelf, shelves (棚);
wife, wives (妻);	self, selves (自分);
half, halves (半分);	elf, elves (鬼);
knife, knives (ナイフ).	

以上の外に舊式によりて、語中の母音を變じて複數を作るものが有る、

man, men;	foot, feet (呎);
woman, women;	goose, geese (鵞鳥);
child, children;	tooth, teeth (齒);
ox, oxen (牡牛);	mouse, mice (廿日鼠);
louse, lice (虱).	

(47) 以上の二つの場合に反して deer (鹿), sheep (羊), swine (豚), の三語は Singular も Plural 共に同じ形なり。

(48) 第二節の梗概

- (a) Number { Singular 一つの時
Plural 二つ以上の時
- I. Regular.....語尾 + s 又は + es の場合
- (1) 語尾 s, x, ch, sh の時。

(b) Formation of the Plural (複數の作り方)

- (2) 語尾 y の前に子音ある時は y を i に變じて。
- (3) 語尾 f 又は fe の時は v に變じて。
- II. Irregular.....母音を變ず。
- III. 單複同形のもの。

第二節

Case (格)

(49) 既に説明したるが如く、文章中の詞が Subject の地位に在るか Object の地位にあるかと云ふ如き名詞と他の詞との關係を ^{ケース}Case と云ふ。

(50) Case に三つあり

- ^{ノミナチーフ}**Nominative case**—名詞が Subject の地位に在る時 Nominative case に在りと云ふ。
- ^{ポセッシーフ}**Possessive case**—名詞が物の持主を表はす時 Possessive case に在りと云ふ。
- ^{オブジクチーフ}**Objective case**—名詞が Object の地位に在る時 Objective case に在りと云ふ。

(51) (a) The boy saw the cat.

此文章の boy は Nominative case にて cat は Objective case なれども

(b) The cat saw the boy.

とすれば cat は Nominative case にして boy は Objective case となる、故に同じ詞も其位置によりて case を異にするものなることを知るべし、尙ほ

(c) This is the boy's cat.

とすれば boy's は Possessive case となるなり。

(52) (50) に於て Subject の地位に在るものは Nominative case なりと云へるが、Subjective complement も Nominative case として取扱ひ、同様に Objective complement は Objective case として取扱ふことになつて居る、即ち

He is a *boy*.

の boy は Subjective complement なる故 Nominative case,

I made him my *servant*.

の servant は Objective complement なる故 Objective case なり。

(53) Iyemitsu, the Third Shōgun was a hero. の如き文章に於て Shōgun なる詞は Iyemitsu なる詞を説明するに

用ひたるものなり、即ち Shōgun と Iyemitsu とは同じ位に在るべき詞なり、かゝる詞を Apposition に在る名詞と云ふ、Apposition = Same position 即ち同じ地位に在る意なり、従つて Shōgun は Iyemitsu と同じ Case に在り、若し Iyemitsu が Possessive なら Shōgun も Possessive, Objective なら又 Objective なり。

(54) Possessive case の作り方——他の Case は形の上に變化を生ぜざれど Possessive case は名詞の語尾に 's (アポストロフ、エス) を加へ、語尾に s ある詞には ' 丈加へて作る、勿論それは Singular, Plural を問はず同じ規則を適用するなり、即ち

man's. men's.

girl's. girls' (girls's とせず).

澤山の詞が重りて成りたる詞、即ち Compound noun には最後の詞に丈此規則を應用す

His brother-in-law's child.

King Edward the Seventh's death.

(55) Possessive case は普通は人間 (Person) 及動物 (Animals) に限りて用ふるとなり居れど、時間、距離及

- (c) Formation of Possessive case { + 's 又は ' Compound noun には最後の詞 丈に。
- (d) Possessive case { 普通 Person, Animal に限り用 ぶ。 時間、距離、價を表す詞にも。
- (e) Possessive case の後に名詞を省く場合
 { shop, house, store 等の語を。
 A friend of my father's 等の後に。

第四節

Gender (性)

- (58) ^{ゼンダー} Gender とは男女何れに屬するかを示す名詞の 一變化なり。
- (59) 四つに分つ
 - (a) ^{マツスキュリン} Masculine—Male sex 即ち男性を表はすもの King, father, brother 等。
 - (b) ^{フェミニン} Feminine—Female sex 即ち女性を示すもの

- queen, mother, sister 等.
- (c) ^{コモン} Common—Both sex, 即ち男女兩性を示すもの parent (親), child (小供), friend (友人) 等
- (d) ^{ニュートル} Neuter—中性, 即ち男女の何れにも屬せざるもの, 凡ての無生物は勿論此類に屬す book, house, tree, water, 等

(60) 男女兩性を分つ法大凡三あり、

- (a) Masculine の語尾に *ess* を加へて Feminine を作れるもの

Mus.

Fem.

Actor (俳優),	actress (女優).
Host (宿屋の主人),	hostess (女主人).
Prince (親王),	princess (内親王).
Emperor (皇帝),	empress (皇后).
Lion (獅子),	lioness (牝獅子).
Count (伯爵),	countess (同夫人).
Master (主人),	mistress (夫人).

尤も其綴の上に多少の變化を生ずることに注意すべし

- (b) 全く異なる語を用ふるもの

<i>Mas.</i>	<i>Fem.</i>
Cock (雄雞),	hen (雌雞).
Horse (牡馬),	mare (牝馬).
Bull (or ox) (牡牛),	cow (牝牛).
Man,	woman.
Boy,	girl.
Son (息子),	daughter (娘).
Husband (夫),	wife (妻).
Uncle (叔父),	aunt (叔母).
Gentleman (紳士),	lady (淑女).
Sir,	madam.

(c) 両性を示すに足るべき boy, girl, he, she 等の語を添へて

<i>Mas.</i>	<i>Fem.</i>
Boy-student,	girl-student.
Man-servant,	maid-servant.
He-goat (牡山羊),	she-goat (牝山羊).
Pea-cock (雄七面鳥),	pea-hen (雌七面鳥).

(61) 第四節の梗概

(a) Gender	{	Masculine. 男
		Feminine. 女
		Common. 男女両方に用ひ得るもの
		Neuter. 男女何れにも非ざるもの

(b) 男女性を分つ法	{	1. Mas. (+ <i>ess</i>) = Fem.
		2. Different word (全く異なる語)にて
		3. 性を示す語を加へて

(62) 第二章の概要

(a) 5 Classes of Noun	{	I. Proper.
		II. Common.
		III. Collective.
		IV. Material.
		V. Abstract.

(b) 3 Modifications of Noun	{	I. Number.
		II. Case.
		III. Gender.

- (c) Number { Singular
Plural } 作り方下の如し
1. Singular + s 或は es.
 2. Irregular—母音を變じて
 3. 單複同一

- (d) Case... { Nominative { Subject.
Subjective Complement.
Possessive { Possessor—作法. + 's 或は '
Objective { Object ... { Direct.
Indirect.
Objective Complement.

- (e) Gender { Masculine—Male sex.
Feminine—Female sex.
Common—Both sex.
Neuter—Neither sex.

第三章

PRONOUN (代名詞)

第一節

Classes of Pronouns (代名詞の種類)

(63) 四種或は五種に分つが普通なれど、五種に分つが便利なるが如し、今五に分つ

- I ^{パーソナル} **Personal pronoun**—I, you, he, she, it, we, they.
- II ^{ポセシヴ} **Possessive pronoun**—所有物を代表するもの
mine, yours, ours, theirs 等
- III ^{アジェクティブ} **Adjective pronoun**—形容詞の代名詞として用
ひられたるものにて 'This is better than that の如
き文中 this の次に book を置かば直に this は形容
詞となるべし、斯の如きを云ふ This, that, some,
other, each, such 等
或は ^{デモンストラチヴ} **Demonstrative pronoun** とも云ふ
- IV ^{レラチヴ} **Relative pronoun**—*This is the book that you*

gave me の文中 that は、this is the book の book を代表すると同時に、you gave me の部分の Object たり、即ち that は前半と後半との両方に關係して、相互の鎖となり居れり、斯の如く文章中の二つの部分の鎖となりて兩者の關係を示す代名詞（此例にては book を代表す）を云ふ—that, which, what, who の四つあり。

V ^{インテロガチーフ} **Interrogative pronoun**—疑問を發するに用ふるもの who, what, which の三を云ふ。

第二節

Modification of Pronoun (代名詞の變化)

(64) Pronoun には名詞の有する三つの Modification 即ち **Number, Case, Gender** の外に尙一つ **Person** (人稱) と云ふ Modification あり。即ち

4 Modifications {
 Number.
 Gender.
 Case.
 Person.

されど此 Modification は五種の Pronoun に皆同様ならず、各異なるを以て、詳しくは夫々の代名詞に就きて之を説明することにし、只簡単に述べて置く。

(65) 代名詞の Modification は

Number { Singular—I, he, she, it, that.
 Plural—we, they, these.
 Gender { Masculine—he, his.
 Feminine—she, her.
 Common—I, we, you.
 Neuter—it.
 Case { Nominative—I, we, he.
 Possessive—my, our, his.
 Objective—me, us, him.

等皆各 Number により Gender により Case により形を異にし、一見甚だ複雑なるが如きも數少くして一定せる故却て覚え易いので有る。

(66) ^{パーソン} **Person** とは如何なるものかと云ふに、文法上に於ては便宜の爲人間又は物を

1. 自ら話す人—Speaker.

- 2. 話しを聴く人—Person spoken to.
- 3. 話題に上る物又は人—Person spoken of.

の三に分つので有る、此三つの何れかを示す Pronoun の性質を名づけて Person と云ふので有る。

(67) 而して第一、話す人 Speaker を **First person** と云ひ—I, we. 第二、話を聴く人即話相手を **Second person** と云ひ—you. 第三、噂さるゝ物又は人を **Third person** と云ふ—He, she, it, they. Noun は皆通常 Third person なり。

(68) 第二節の梗概

- (a) 4 Modifications of Pronoun {
 - Person.
 - Number
 - Gender.
 - Case.

(b) Person 以外の Modification の細別は名詞の時と同じ

- (c) Person {
 - 1st—Speaker.
 - 2nd—Person spoken to.
 - 3rd—Person spoken of.

第三節

Personal pronoun (人稱代名詞)

(69) 他の Pronoun は皆 Third person なれども此 Pronoun のみは三つの Person を完全に表はす故に此名あり—I, we, he, she, it 等

(70) Declension—Person, Number, Gender, Case に従つて Person を排列することを云ふ、而して Personal pronoun は此排列をなし得る丈の各異りたる形を皆完全に有せり、之を表示して見ると次の通り有る。

(71) Personal pronoun の Declension の表

(此表は何人も諳誦せねばならぬ)

PERSON.	GENDER.	SINGULAR NUMBER.			PLURAL NUMBER.		
		Nom.	Poss.	Obj.	Nom.	Poss.	Obj.
1st.	Com.	I	my	me	we	our	us
2nd.	Com.	you	your	you	you	your	you
3rd.	Mas.	he	his	him	All Genders.	they	their
	Fem.	she	her	her			
	Neut.	it	its	it			

(72) 上の表中

- (a) I に限り常に Capital letter にて記すことゝなつて居る。
- (b) 帝王は朕の意にて I の代りに We を用ふるが慣例で有る。
- (c) 2nd person には Singular に thou, thy, thee. Plural の Nominative に ye なる形あれど普通の場合には用ゐず、詩、祈禱などに用ふるのみ。
- (d) You は Singular, Plural 共に同じ形を用ふ。

(73) It は無生物其他下等動物にのみ用ふ。此詞は有ゆる Personal pronoun 中最も用法の廣き詞なり。

- (a) 天氣、時刻、距離等の名詞を擧げずして、ぼんやり it を用ふることあり。

Weather (天氣) の例—*It is fine (cold, wet) to-day.*

It rains.

Time (時刻) の例—*It is half past seven. It is late.*

Distance (距離) の例—*It is two miles from here to Tokyo.*

- (b) Phrase, Clause 等をも代表す。

It is not right to tell a lie. (Phrase)

It is certain that he will go. (Clause)

(74) They は何れの Gender にも用らる、此詞は *They say that he is a good man.*

の如く誰を指すとなく單に漠然と用ひた場合には people 即ち世人の意に用ゐたので有る、斯る例は中々少くない

(75) Compound personal pronoun と云ふものが有る。

PERSON.	SINGULAR.		PLURAL.	
	Nom. Obj. 同形	Poss.	Nom. Obj. 同形	Poss.
1st.	Myself	my own	Ourselves	our own.
2nd.	Yourself	your own	Yourselves	your own.
3rd.	Himself	his own	Themselves	their own.
	Herself	her own		
	Itself	its own		

表に見るが如く Nominative と Objective とは皆同一の形にして、Personal pronoun の Possessive case 又は Objective case に、Singular は self を、Plural は selves を加へた

もので有る。

此代名詞には凡て Possessive case の形なきを以て Personal pronoun の Possessive case に own を添へて Possessive case とするので有る。

(76) 第三節の梗概

(a) Personal pronoun は三つの Person を完全に具ふ。

(b) 他の Pronoun—皆 Third person.

(c) Declension—Person, Number, Gender, Case に従つて Personal pronoun を排列すること

(d) Declension の表譜誦を要す

(e) Compound personal pronoun

$$= \left\{ \begin{array}{l} \text{Possessive case} \\ \text{or} \\ \text{Objective case} \end{array} \right\} \text{of Personal pronoun} \left\{ \begin{array}{l} + \text{self (singular)} \\ + \text{selves (plural)} \end{array} \right.$$

第四節

Possessive pronoun. (所有代名詞)

(77) Possessive pronoun は下の六つ有るのみ

Mine, ours, yours, his, hers, theirs.

(78) 所有主を表はすよりも其所有者のもつて居る物を表はすもので有る。

例へば林檎を手にもつて居る人が

This is mine. と云へば

Mine は其林檎を指して居るので有つて、又之を指す爲に特に此言葉を用ゐたもので有る、

此際林檎の持主が他人に林檎を一つ與へて

And this is yours.

とも、又澤山與へて

These are yours.

とも云ふことが出来る、即ち yours は Singular にも Plural にも用ゐることが出来る。

My father is taller than theirs (is). (Singular)

My parents are older than theirs (are). (Plural)

(79) Number は Singular, Plural 何れにも用ゐらるゝが Person は常に Third person に決まつて居る、之れ人を表はすよりも人の持つて居る物を表はすを目的として居る爲で有る、即ち Person は普通の Noun と同じこ

とで有る。

Gender は Personal pronoun の場合の本来の Gender と同じと見るが適當で有る。

(80) Case に関しては大に Personal pronoun と異つた所が有る。

What have you done with *yours*? (Object)

Yours are all good. (Subject)

の如く Nominative, Objective 同一の形を用ふれども一體に Possessive case なるものがない、之れが Personal pronoun の Possessive case と全然異つた所で有る、

例へば

(a) These are *your* apples.

(b) These are *yours*.

の二つの文章について見るに (a) の *your* は所有者を表はすを目的として其後には Noun が有り (之れ Personal pronoun の Possessive case の特徴なり)、(b) の *yours* は所有されて居る物を表はすを目的として、其後に名詞を従へず、必ず、單獨に獨立して居るので有る (之が Possessive pronoun の特徴で有る)。

(81) Possessive pronoun の形は Personal pronoun の Possessive case とは大抵異り、語尾に多くは *s* をもつて居る故直に識別が出来るので有るが *his* 又は Personal pronoun の possessive case と同じ形をして居る、で此二つが混同することはないかと思ふものもあらんが實際は節の (80) に述べた通りに

He lost *his* watch. (Poss. case)

My watch is dearer than *his*. (Poss. pronoun)

のやうに Possessive case の場合は必ず後に名詞が来るに反して Possessive pronoun の方は名詞が必ず來ないので決して混同さるゝことはないので有る。

(82) (56) に於て Possessive case の後にも、

I met a friend of my *brother's* (friends).

の如き場合に、名詞を略することありと云ひたるが、丁度此と同じ用法が Possessive pronoun にも在る、即ち

(a) I met a friend of *his*.

意味も『大勢の友人の中の一人』即ち a friend of his friends の意にて、單に

(b) I met *his* friend.

と云ふ時とは大差あり、(b) は友人が一人よりなき場合か、又は斯く云へば直にそれと聴く人に了解出来る場合の外用ふべからざるは (56) の時と同様で有る。

(83) 第四節の梗概

- (a) Possessive pronoun { Pronoun—Mine, ours, yours, his, hers, theirs. の六
- (b) Modification { Number—Singular plural 何れにも用ふ
Person—皆 Third person.
Case { Nominative } 同形
 { Objective }
 { Possessive なし
- (c) { Personal pronoun の Possessive case } 所有者を表はし後に名詞来る
 { Possessive pronoun } 所有者よりも所有される物を表はし後に名詞来らず
- (d) { I met a friend of his. } の差別
 { I met his friend. }

第五節

Adjective Pronoun (形容詞狀代名詞)

(84) 主なる ^{アゼクテーフ} Adjective Pronoun—

- this (these), that, (those),
- all, both, such, each,
- either, neither, one, more,
- other, another, any, some,
- the former, the latter, since.

(85) 此等の後に試に Noun を附加すれば、これ等は直に Adjective となり、後に Adjective の處に於て所謂 **Pronominal Adjective** (代名詞狀形容詞) となる、けれども之に Noun を附せず、代名詞として用ふれば、Pronominal Adjective に對して、之を **Adjective Pronoun** (形容詞狀代名詞) と云ふので有る。即 Adjective Pronoun と云ひ Pronominal Adjective と云ひ、元來が同じ形なるに、唯用法が異なるより名を異にして居るので有る。

(86) 此等の Person は凡て Third person, Case は用ひ方によりて異り、Gender も極めて不定であるが、each,

either, neither, another は常に singular number、these, those, both だけは常に plural number に限りて用ひ、其他のものは singular plural 何れにも用ひられるので有る。

(87) THIS, THAT—此二つは it に比すると意味強く、it は和譯するの要なけれど this, that は必ず譯さなければならぬ、these, those は勿論其 plural で有る。

This is a book.

What is *that*?

That is not a book.

It is a note-book (note です).

(88) ALL—意味は Plural の如きも實際は Singular, Plural 何れにも用ふ。

These are all there are.
These are all I have. } (Plural)

This is all I have.
Is that all? Yes, that's all. } (Singular)

(89) BOTH—二つのものゝ事を云ふに用ふ、而して常に plural.

Do you know *both* his sisters.

(90) SUCH—as に伴ふことが多い。

Every body praises *such* as you.

Such is the case.

(91) EACH—各々の意にて singular に限り用ふ。

Each took his place. (だれも彼も)

(92) EITHER, NEITHER—共に二つのものに就て云ふ事なれど、常に singular に用ふ、either は(どちらか)、neither=not either は(どちらも)と打消の意に用ふ。

You may take *either* of these two.

No, I will take *neither*.

Neither には既に not の意ある故更に not を用ふる事能はず。

(93) ONE, NONE—ONE は人又は物の意に用ひ、Singular にも又は Plural にも用ひらる。

(a) *One* should love *one's* country.

(a) の one は man の意にて、之を用ふれば Poss. case にも one's (=his) の形を用ふるが普通で有る。

(b) You have many apples. Give me a ripe *one*.

(c) These apples are not good. Give me better *ones*.

(b) の one は物を指し、Singular けれど (c) のは Plural で有る、

NONE は no one 即 not one の意にて人にも物にも用ひらる。

Are there any? No, there are *none*. (Plural)

Is there any? No, there is *none*. (Singular)

None (=no one) will go.

けれど其今は一般に *None* know the fact. の如く Plural に用ひらる、

此語には既に not の意味ある故 I did not see *none*. の如く別に not を用ふれば却て打消同志が撞着して本當の打消とならぬことゝなる故 I saw *none*. とせねばならぬ。

(94) OTHER, ANOTHER—

ANOTHER は Singular に限り、OTHER は Plural の形 *others* を有して居る、

Other は singular の場合は二つ中の第二の意、plural の時は残りの方の意に用ひ *another* はどれが今一つの意に用ふ。

One of them (the two) is a soldier, *the other* a

scholar. (二人の中第二者は)

One of his daughters is married, *the others* are attending the school yet. (他の娘は)

This apple is not sweet. Give me *another*. (澤山の中の何れか一つ)

Other は常に *the* を冠して用ひられ、Possessive case の形として *other's*, *others'* をもつて有る。

(95) ANY, SOME—無きか有るか不明の時に *any* を用ひ、有りと確なる時に *some* を用ふ。

Is there *any*?

Are there *any* who will not go?

Yes, there are *some*.

(96) the FORMER, the LATTER.—此二つは常に *the* を冠して用ふ。

Japan fought against Russia, and *the former* defeated *the latter*.

(97) SAME—必ず "*the*" を冠して用ふ。

My school is *the same* as his.

(98) 第五節の梗概

- (a) 主なる Adjective Pronoun—17.
- (b) Adjective との差——後に名詞を附すれば直に Adjective となる。
- (c) each, either, neither, another は常に Singular.
- (d) both は常に Plural.

第六節

Relative Pronoun (関係代名詞)

(99) 前にも述べたが如く

I do not like a man *who* is idle.

中の *who* のやうに、man を代表して文章の前の部分と関係し、更に又 *is* の subject となりて *who is idle* と云ふ部分にも関係する、かゝる文章中の前後の鎖を **Relative Pronoun** と云ふので有つて *who, which, that, what* の四つより外にはない。

(100) 上の例に於て man の如く Relative Pronoun の前に在つてそれに代表さるゝものを **Antecedent** と云ふ、尤も *what* に限りて別に Antecedent を取らぬ、

(101) Relative Pronoun は皆 Singular, Plural 何れにも用ひらるゝが、今 Case に従つて Declension をして見ると

	Nom.	Poss.	Obj.
Singular or Plural	who	whose	whom.
	which	whose (或は of which)	which.
	that	—	that.
	what	—	what.

that 及 *what* には Possessive Case の形はない

(102) WHO— は人間に限りて用ひ 動物などに用ひず。

The man *who* came yesterday is my friend.

The man *whom* I have saved is very young.

(103) WHICH— 人間に用ひず、動物及生物に限り用ふ。

The house *which* stands on that hill is a temple.

Which の Possessive Case なる *whose* は普通に用ひずして、代りに *of which* なる形を Possessive Case として用ふることが多い。

I have bought a book the cover of which is quite broken.

the cover of which は whose cover と同じで有る。

(104) THAT—は人物と動物と無性物とを問はず、何れにも用ふる事が出来る。

He is the greatest general that ever lived.

This is the finest book that I ever saw.

の如く、これが一番と云ふ様な、極めて物を制限する如き文章に於ては、必ず此 that を用ひ who, which を用ひぬが普通で有る、之は大切なことで有る。

(104) WHAT—は他の Relative Pronoun と異りて前述の如く Antecedent を取らぬ詞で有る。

I can not understand what you say.

I only did what is right.

之れ what は元來 that which の結合せるものにて Antecedent が that なる詞なる故で有る、に故 what you say = that which you say で有る。

(106) 所が Relative Pronoun の必要なる文章で有つて、其姿の見えぬ場合が甚だ少くない、之れ其 Relative

Pronoun が Object の場合に限りて略す事が出来るからで有る。

(a) This is the book (that) I bought yesterday.

(b) I saw the man (which) you spoke of.

即ち (a) には that (b) には which が省かれて居る、而して之は極めて通常の事として取扱はれて居る。

(107) 第六節の梗概

(a) Relative Pronoun— who, which, that, what.

(b) Antecedent— Relative の前に在りて、之に代表さるゝ詞

(c) Declension—(暗誦を要す)

(d) who— 人に限り用ふ

which— 動物及び無生物に

that— 制限的意味を以て人にも物にも

what = that which— 自ら antecedent を有し、他に antecedent を取らず

(e) Object の位置に立つ Relative を省略すること多し。

第七節

Interrogative Pronoun (疑問代名詞)

(108) ^{インターロガチーフ} Interrogative Pronoun. は疑問を起すに用ふる代名詞で有つて who, which, what の三つ有り、形から云ふと Relative と似たもので有るが實は全く異つたもので有る。

(109) Relative と同じく Number と Case に従つて Declension をして見ると

	Nom.	Poss.	Obj.
Singular	who	whose	whom
及	what	—	what
Plural.			
Singular	which	—	which
のみ			

what と which には Possessive Case の形はない、which は意味の上から Singular のみに用ふるのである。

(110) WHO—人のみに用ふ

Who is he?

Whose is that dog?

Whom do you want?

(111) WHAT—人にも物にも用ふ、人には身分又は職業を問ふ時に用ふ。

What is it?

What is he?—He is a soldier.

是に似て *Who is he?* { *He is Mr. Ito.*
He is my uncle.

の如く、who は what の身分職業を問ふに對して、人の名前や血族上の關係などを問ふ時に用ふ。

(112) WHICH—人にも物にも用ひ、いづれ、どちら、どれ と云ふ様に選擇の意をもつて居る

Which do you like?

Which of these two books is more interesting?

(113) Interrogative Pronoun は文章の眞先ばかりではない、又文章の中程に現はれて、一見 Relative Pronoun のやうな風に思へることが有る、けれども Interrogative Pronoun の場合には、Relative Pronoun と異りて Antecedent がないから、之を混同するやうなことは決して

ない、兩者を比較して見ると

Interrogative P.	Relative P.
I do not know <i>who</i> he is.	I do not know the man <i>who</i> did it.
It is not easy to say <i>which</i> is better.	This is the picture <i>which</i> you said is better than that.
Tell me <i>what</i> it is.	This is <i>what</i> he told me.

(114) 第七節の梗概

- (a) Interrogative Pronoun—who, which, what.
- (b) その Declension—(暗誦を要す)
- (c) who—人のみに用ふ
 what—人にも物にも
 which—人にも物にも
- (d) $\left\{ \begin{array}{l} \textit{Who} \text{ is he? (名前、血族關係を問ふ)} \\ \textit{What} \text{ is he? (職業身分を問ふ)} \end{array} \right.$

(115) 第三章の概畧

- | | | |
|------------------------|---|------------------------|
| (a) Classes of Pronoun | } | I Personal Pronoun. |
| | | II Possessive Pronoun. |
| | | III Adjective Pronoun. |

- IV Relative Pronoun.
- V Interrogative Pronoun.

- (b) Modification
- | | | |
|---|--------|-------------|
| } | Person | 1st Person. |
| | | 2nd Person. |
| | | 3rd Person. |
| } | Number | 名詞に同じ |
| | Gender | |
| | Case | |

(c) Personal Pronoun の Declension の表

Per.	Gen.	Sing.			Pl.		
		Nom.	Poss.	Obj.	Nom.	Poss.	Obj.
1st P.	Com G.	I	my	me	We	our	us
2nd P.	Com G.	You	your	you	You	your	you
3rd P.	Mas.	He	his	him	All Genders	They their them	
	Fem.	She	her	her			
	Neut.	It	its	it			

(d) Compound Personal Pronoun の Declension.

Per.	Sing.		Pl.	
	Nom. Obj.	Poss.	Nom. Obj.	Poss.
1st P.	Myself	my own	Ourselves	our own
2nd P.	Yourself	your own	Yourselves	your own
3rd P.	Himself	his own	Themselves	their own
	Herself	her own		
	Itself	its own		

(f) Possessive Pronoun—mine, ours, yours, his, hers, theirs.

(g) { Personal Pronoun の Possessive case } 所有者を表はし其後に名詞を従ふ
 { Possessive Pronoun } 所有者よりも所有されて居る物を表はし、其後に名詞來らず

(h) I met a friend of yours. の意味

(i) Adjective Pronoun と Adjective との差—前者は其後に名詞を附すれば直に Adjective となるもの

(j) { (1) each, either, neither, another は常に Singular
 (2) both は常に plural
 (3) 他は單復何れにも

(k) Relative Pronoun { who—一人に限り用ふ
 which—動物無生物に
 what—制限的意味をもつて人にも物にも
 what—自ら Antecedent を有す

(l) Interrogative Pronoun { who—一人にのみ用ふ
 what—
 which— } 人にも物にも

(m) Who is he? (名前血統を問ふ)
 What is he? (身分職業を問ふ)

第四章

ADJECTIVES (形容詞)

第一節

Classes of Adjectives (形容詞の種類)

(116) 文法家によりて種々の分類をなせど、今便宜上下の四つに分つ

- | | | | |
|-----------|---|-----|---|
| 4 Classes | } | I | ^{プロノミナル}
Pronominal Adjective |
| | | II | ^{クオンチタチヴ}
Quantitative Adjective |
| | | III | ^{ニューメラル}
Numeral Adjective |
| | | IV | ^{クオリアファイイング}
Qualifying Adjective |

(117) **Pronominal Adjective** は Pronominal の處にて説明したるが如く、後の名詞を取れば直に Pronoun となるもの、即

This book is cheaper than *that* book.

の book を取り去れば *This* も *that* も直に pronoun とな

るべし、かゝるものを云ふので有る。

(118) **Quantitative Adjective** は量の多少を表はす形容詞で有る。

He drank *much* wine.

She ate *little* bread.

(119) **Numeral Adjective** は数又は順番 (order) を表はすもの。

Many men are poor.

He shot *three* pigeons. (鳩)

The *first* dog ran fast.

(120) **Qualifying Adjective** は物の性質或は状態を表はすものにて、普通の形容詞は皆これで有る。

The flower is *beautiful*.

A *small* bird was singing on the *high* roof.

第二節

Pronominal Adjective (代名詞狀形容詞)

(121) 大體 Adjective Pronoun として挙げたものと同じで有るが、その主なるものは

This,	(these),	that,	(those),
such,	same,	other,	some,
any,	one,	all,	both,
what,	which,	each,	every,
either,	neither,	another.	

の十七で有る。

(122) Both の常に Plural なること、Another, each, every, either, neither の常に Singular なることは Pronoun の時と變りはない、

Adjective としては one も Singular に限る、

其他の用法に關しては大體 Pronoun の時に述べたると同様なれど猶多少の注意すべきことは下の數點で有る。

(123) SAME—此詞は常に the を冠して用ひられ、普

通に as を後に従ふ。

My school is *the same one as* his.

(124) SUCH—

I never saw *such a* beautiful flower.

の如く Article “a” “an” と共に名詞に附く時は眞先に置く、

又其後には as や that が來るのが普通である、

I never saw *such a* boy *as* you.

He spoke with *such* eloquence *that* they all praised him.

(125) ALL, BOTH—Article “the” と共に名詞に附く時は眞先に用ふるが例で有る。

All the teachers praised him.

Both the parents were dead.

(126) OTHER—常に “the” を冠して用ひ、形容詞の時 Plural にても、語尾に “s” を附せず、單複數共同形で有る、用法は Pronoun の時と同様である、即

(From *this* side to *the other* side of the river.

Singular の場合は二つの中の第二の意なれど Plural の時

は、

“他の一方” “残のもの” 等の意に用ふ、

One of his sisters is married, but *the other* sisters are all attending the school yet.

(127) ANOTHER—Pronoun の時と同じく “今一つの異つた” と云ふ意に用ふ。

There must be *another* way of doing it.

other に比べると一層不定で有る。

(128) ONE—前述の如く Adjective の時は “one” は Singular のみに用ひ、而も時を表はす所の副詞句に限り a certain (或る) の代りに用ひらる。

One day (或る日), One morning (或る朝).

One night (或る夜), One evening (或る夕).

(129) SOME, ANY—

(a) *Some one* must have stolen it. (誰か確かに)

Any book will do. (何れでも)

(b) I do not want *any* book. (どれも、何も)

Do you want *any* book? (何か)

Some は Any よりも極めて確かな場合に用ひ、而も肯定即ち Not を用ひぬ場合に限りて用ふることは Pronoun の時と變りはない、

更に今一度机の上に箱が置いて有つたとする、處が其箱の姿が何時の間にか見えなくなつたとする、此時

Some one must have taken the box away.

と云ふ事は云へる、蓋し誰か取り去つたものなければ箱は姿を隠す筈なきを以てある、此時又人々に向つて、

Does *any one* know about it?

と云ふ事は差支ない、尋ねられた人が知つてるか知つて居らぬか不明なる故で有る、

此二つは one, thing, body と合して something, any body, some one 等の語をなすことが多い。

(130) EACH, EVERY—each は單に “一つ々々” 又は “どれも此も” “銘々” の意なれど、Every は “一つ々々皆” “どれも此も悉く” の意で有る、

Each boy has his own book. (銘々)

Every boy knows it. (どれも悉く)

He comes *every three days*. (三日目毎に)

(131) EITHER, NEITHER—either は二つの中の“どちらか”又は“兩方”の意に、neither は其反對で“どちらも”の意に用ふ、

Neither は not either なること前に云つた通りで有る。

You may take *either* side. (どちらか)

The river overflowed on *either* side. (兩方に)

I would not take *neither* side. (どちらも)

(132) WHAT, WHICH—

What book do you like? (どんな)

Which book do you prefer? (どちらの)

此二つは Interogative Pronoun の形容詞として用ひられたものである、故に人によりては Interrogative Adjective と云つて居るものもある。

(133) 第二節の梗概

(a) Pronominal Adjective の主なるもの 17,

(b) 此等の特徴

1. *the same*.
2. *Such a boy as*.
3. *All the teachers*.

4. Both *the* parents.

5. { *the other* — 二つの中の一つ

6. { *another* — どれか今一つ

7. One — 或るの意に

8. { *Some* — 確な場合

9. { *Any* — 不確な場合(どれでもの意)

10. { *Either* — どちらか、兩方

11. { *Neither* — どちらも

12. { *What* — どんな

13. { *Which* — どちらの

14. { *Each* — めいめい、各々

15. { *Every* — 一々悉く、残らず

第三節

Quantitative Adjective (量形容詞)

(134) **Quantitative Adjective.** は quantity (量) を表はすものにて、必ず Singular Noun 即ち Material Noun

又は Abstract Noun に伴ふに決まつて居る。

(135) 此種類の重なる形容詞は Much, little, enough, sufficient, whole, no, some, any, all 等で有る。

He drank *much* wine.

I have *a little* money.

He ate *enough* (or *sufficient*) bread.

He ate the *whole* quantity of bread.

He drank *all* the beer.

There is *no* wine left.

Have you *any* money?

He ate *some* potato.

no, all, some, any の四つは Plural Noun にも用ひ、同時に Quantitative Adjective を脱することもあり、又後の三つは前述の如く單に Pronominal Adjective として取扱はるゝことも有る。

(136) LITTLE, A LITTLE—

(a) Have you much money?	No, I have <i>little</i> money.
(澤山もつてるか)	(少ない餘りない)

(b) Have you any money?	Yes, I have <i>a little</i> money.
(金をもつてるか)	(少しはある)

上の例に見るが如く、“little”と“a little”とは、同じく“少ない”と云ふ意を表はすものなれど、元來兩者の立場が根本的に異つて居るので有る、

即ち (a) の例に於ては“少くて、餘りない”と云ふ無き方に重きを置き、(b) の方にては“少しは有る”と有る方に重きを置いて云つたもので、幾何以下は little で幾何以上は a little だと云ふやうな差別は少しもない、要するに少ない事を表はす點に於ては同一で有る。

(137) 第三節の梗概

- (a) 主なる Quantitative Adjective.
- (b) little—少いと無きに重を置く、
a little—少しは有ると有るに重きを置く、

第四節

Numeral Adjective (数形容詞)

(138) **Number** (数) を表はすものは凡て **Numeral Adjective** と稱するので有るが前節の **Quantity** (量) を表はすものと合して **Quantitative Adjective** と名づくる人もある。

(139) 数の中にも *two, three*, 又は *double, half* 等の如く **definite** (定まつた) なものと、*few, several* 等の如く **indefinite** (不定) なものとの二通り有る。

Numeral Adjective { Indefinite Number—(*few, several*)
Definite Number— (*two, double*)

(140) **Indefinite Number** を表はす主なるものの中に、*few, many, several* 等が有る、又 *no, some, all* 等の **Quantitative Adjective** 又は **Pronominal Adjective** が **Numeral Adjective** として數を表はすことが有る。

No men were present.

Some birds were flying then.

等がそれで有る。

(141) **A FEW, FEW**—

此二つの差別は *little* と *a little* の差別と同じく、*a few* は有るに重きを置き、*few* は無きに重きを置く詞である、即ち—

There are a few kind men. (少しはある)

There are few kind men. (少ない)

(142) **Definite Number** を表はすものは特に **Numeral** と云ひて三つに分つことが出来る。

Definite Number { (a) ^{カーディナル} Cardinal Numerals. ^{ニューメラル}
(b) ^{オーデナル} Ordinal Numerals. ^{ニューメラル}
(c) ^{マルチプリカチーフ} Multiplicative Numerals. ^{ニューメラル}

(143) **Cardinal Numerals** 又は **Cardinals** は *one, two, three* 等の普通の數を云ふので有る。

(a) *hundred* (百) の次に、*hundred* のなき時は *thousand* (千) の次に *and* を入れて書き又は讀む、即ち *215—Two hundred and fifteen.*

2015—Two thousand *and* fifteen.

(b) 1001 より 1999 までの読み方

- | | | |
|------|---|---|
| 1573 | { | 1. One thousand five hundred <i>and</i> seventy
three. |
| | | 2. Fifteen hundred <i>and</i> seventy three. |
| | | 3. Fifteen seventy three. |

最後の読み方は年號を読むに用ふ。

(c) hundreds 又は thousands は單に “澤山” の意
に用ふ、

Hundred of people were gathering.

Thousands of times I went there.

Hundreds of hundreds.

Thousands of thousands.

(144) **Ordinal numerals** 又は **Ordinals** は順番を示すものにて、first, second, third の外皆 Cardinal の語尾に th を加へて作り一般に冠詞 the を附けることになつて居る。

(a) Five—fifth.

Seven—seventh.

(b) *The first of* January.

The forty fourth year of Meiji.

(c) 又 Charles I は Charles *the First.* と読み
James II は James *the Second* と読むことになつて居る。

(d) 分數の読み方は

$\frac{1}{4}$ — One fourth.

$\frac{2}{3}$ — Two thirds.

$\frac{3}{5}$ Three fifths.

の如く、分子を Cardinal 分母を Ordinal にて読む。

(145) **Multiplicative Numerals** 又は **Multiplicatives** は倍數を表はすものにて、half, double, twofold, triple 等の如きを云ふ、
multiplicatives の次には次の如く of を省くが普通である。

We bought it at *double* the usual price.

(146) 第四節の梗概

(a) Numeral Adjective	{	Indefinite (few, many, several)
		Definite { Cardinals (one, two)
		Definite { Ordinals (third, fifth)
		{ Multiplicatives (half, double)

(b) Cardinals の読み方

- 2351 {
1. Two thousand three hundred *and* fifty one.
 2. Twenty three hundred *and* fifty one.
 3. Twenty three fifty one. (年を読む時)

(c) Ordinals の書方及読み方

- (1) Cardinal + th (First, second, third の外 fourth, sixth. 等)
- (2) *The seventh of May* (五月七日) の如く前に "the" を置く
- (3) Napoleon III = Napoleon *the third*.
- (4) $\frac{3}{6}, \frac{1}{6}$, — three sixths, one sixth. と読む

第五節

Qualifying Adjective (名状形容詞)

(147) 下の四つに分つ

- (a) 物の性質或は状態を表はすもの
- (b) ^{マテリアル} Material Adjective
- (c) ^{verbal} Verbal Adjective
- (d) ^{proper} Proper Adjective

(148) 物の性質或は状態を表はす所のものは皆この ^{クォーリファイング} Qualifying Adjective に属し、普通の形容詞は大抵これで有る — *good book, sick man, beautiful flower*. 即ち *good, beautiful* は性質を表はし *sick* は状態を表はして居る。

(149) Material Adjective と云ふは Material noun の Adjective として用ひられたるもの、— *gold watch, silver spoon, iron bridge*.

(150) Verbal Adjective と云ふは Verb の或る形の Adjective として用ひられたるもの — *rising sun, singing bird, broken English*, (間違だらけの英語) *boiled rice* (飯)

(151) Proper Adjective と云ふは Proper noun の變形して Adjective となれるもの — *English language,*

Japanese custom (習慣), *Chinese character* (漢字).

就中國の名から轉じて來た Proper Adjective は、其儘其

國の國語の名として用ひられ、又其儘或は多少の變化を受けて其國民の名となることが通常で有る。

Japan (日本)	{	Japanese (形容詞)
		Japanese (國語)
		The Japanese (日本人)
England (英國)	{	English (形容詞)
		English (英語)
		The English (英國人)
Russia (露國)	{	Russian (形容詞)
		Russian (露語)
		The Russians (露人)

第六節

Comparison (比較法)

(152) Adjective は物の性質の善惡又は數量の多少即ち度合 (Degree) を表はすに夫々異つた形を用ふるが普通で有る、其異つた形を用ふることを Comparison (比較法)

と云ふ、Adverb にも Comparison が有る。

(153) 形容詞の Comparison 即ち異つた形を用ふることは三つに別れて居る、

Comparison	{	^{ポジチヴ} Positive Degree (原級)
		^{コンパラチヴ} Comparative Degree (比較級)
		^{シユーパーラチヴ} Superlative Degree (最大級)

即ち英語にては此三つの Degree (度合) を以て物の性質の善惡、數量の多少を表はすことになつて居る、Adverb も同様で有る。

(154) Positive Degree—これは Adjective のまだ Comparison をやらぬ、原の儘の形で有る、

The flower is beautiful.

The wind is cold.

beautiful と云ふも cold と云ふもまだ美しさや寒さを他の美しさや寒さと較べての上の形ではない、けれども

(155) Comparative Degree—と云ふのは、一度他の場合と比較して起るもので、

This flower is more beautiful than that.

It is *colder* than yesterday.

の如く、此花はそれよりも一層美しいとか、今日は昨日よりも一層寒いと云ふ時の形を Comparative Degree と云ふのである、更に進んで

(156) Superlative Degree— となると比較の最高の度合を云ふので有つて、最良最悪最美等此以上ないと云ふのが此 Degree で有る。

This is *the most beautiful* flower I ever saw.

To-day is perhaps *the coldest* day of the year.

最も美しいと云い最も寒いと云ふ即ち最高の度合で有る、最高の度合を表はすものは皆 Superlative Degree に属す。

(157) Positive Degree は原形其儘で宜しいが、Comparative と Superlative を作るには大抵一定した方法が有る即ち、

(a) One syllable の語と two syllables の或語には——
語尾 + er, est

(b) two syllables の多くの語と three syllables 以上の語には——語の前に more, most を添へて、

(c) 以上の regular (規定正しき) の場合の外 irregular (不規律) な場合が今一つ有る。

(158) + er, est の場合

Pos.	Com.	Sup.
high	higher	highest
small	smaller	smallest

(1) 語尾に響かぬ "e" 有る時は之を省き去りて後

wide	wider	widest
large	larger	largest

(2) 語尾が一つの子音にて終り其前に短かき母音ある時は子音を重ねなければならぬ、

hot	hotter	hottest
big	bigger	biggest

(3) 語尾が "y" にて其の前に子音ある時は "y" を "i" に變せねばならぬ、

happy	happier	happiest
easy	easier	easiest

此例は皆 2 syllables で有るが er, est を加へて作る 2 syllables の他の例を挙げれば、

(92) 英文法の覚え方

<i>Pos.</i>	<i>Com.</i>	<i>Sup.</i>
noble	nobler	noblest
pleasant	pleasanter	pleasantest
narrow	narrower	narrowest
clever	cleverer	cleverest

(159) + more, most の場合

<i>Pos.</i>	<i>Com.</i>	<i>Sup.</i>
famous	more famous	most famous
useful	more useful	most useful
difficult	more difficult	most difficult

以上は 2 syllables の場合なるが 3 syllables 以上の時は皆斯の如くす、

diligent	more diligent	most diligent
beautiful	more beautiful	most beautiful

(160) 不規則なる場合—主なるものは下の數種で有る

<i>Pos.</i>	<i>Com.</i>	<i>Sup.</i>
Good	better	best
Well	better	best
Bad	worse	worst

第四章 形容詞 (93)

Evil	{ worse	worst
Ill	{ worse	worst
Much	{ more	most
Many	{ more	most
Little	less	least
Old	{ older	oldest
	{ elder	eldest
Late	{ later	{ latest
	{ latter	{ last
Far	farther	farthest
Nigh (近)	nigher	{ nighest
		{ next
Fore (前)	former	{ formost
		{ first
Hind	hinder	hindmost

(161) 前節に關する注意

(1) well は Adjective としては、健康に關し且つ Complement としてのみ用ふる故に、better, best の形も good の better, best と混することはない

— I am *better* to-day. (well の com.)

(2) ill も健康に關してのみ用ふ、

(3) much は量を表はして Singular noun にのみ、many は數を表はして Plural noun にのみ附くを以て、相方の Comparative と Superlative とは混同することはない、

(4) elder, eldest は家族的關係を表はす時にのみ用ふ—即

My *elder* sister and brother.

と云へど

My sister is *older* than I.

と云つて、此時は elder と云はず。

(5) later, latest は時間に関し、latter last は順序に關して用ふ、

This is the *latest* news.

The *last* man has come.

(162) Superlative Degree の前には普通に “the” を附けねばならぬ

He is the *tallest* man in the school.

This is the *best* of all.

(163) Comparative の形を以て Superlative の意味を表はすことが出来る、此方法は下の二通りで有る。

(a) The Kawachi is *larger* than any other Japanese warship.

(b) I have never been in *better* condition.

けれども第二の場合には than now の如き句が略されて居ることは云ふまでもない。

(164) 第六節の梗概

(a) Comparison { Positive—原形
Comparative—Positive + er, more.
Superlative—Positive + est, most.

(b) Comparison の formation.

(1) { 1 syllable の語及 } ... + er, est.
 { 2 syllables の或語 }

(2) { 2 syllables の多くの語及 } ... + more most.
 { 3 syllables の語 }

(3) 不規則なる作り方…(暗誦を要す)

(c) 綴上の變化

- (1) 語尾の silent "e" 省く
- (2) 語尾の子音の前に 短母音 ある時子音を重ぬ、
- (3) 語尾 "y" の前に子音ある時 "y" を "i" に

(d) Much と Many の Comparative と Superlative との見分け方—

- { Many—後に Plural noun.
- { Much—後に Singular noun.

(e) Superlative の前には常に—"the"

(165) 第四章の梗概

- (a) Classes of Adjective {
- I Pronominal.
 - II Quantitative.
 - III Numeral.
 - IV Qualifying.

(b) Pronominal Adjective—

- | | | | |
|--------|--------|---------|----------|
| this, | that, | such, | same. |
| other, | some, | any, | one. |
| all, | both, | what, | which. |
| each, | every, | either, | neither. |

another.

(c) both—常に Plural

one, each, every, either, neither, another—常に Singular

(d) Quantitative Adjective—

必ず Material 或は Abstract Noun に伴ふ— much, little, enough, sufficient, whole 等

(e) { little—少いと、無きに重きを置き
 { a little—少しは有ると、有るに重きを置く

(f) Numeral Adjective {

- Indefinite (few, several, many)
- Definite { Cardinals (one, two)
- { Ordinals (third, sixth)
- { Multiplicatives (double, triple)

(g) Cardinals の三つの讀方

- 1621 {
- (1) One thousand six hundred and twenty one.
 - (2) Sixteen hundred and twenty one.
 - (3) Sixteen twenty one.(多く年號に用ふ)

(h) $\left\{ \begin{array}{l} \text{few} \\ \text{a few} \end{array} \right.$ の二つは用法 $\left\{ \begin{array}{l} \text{little} \\ \text{a little} \end{array} \right.$ に等し

(i) Ordinal の 読方と書方 $\left\{ \begin{array}{l} (1) \text{ Cardinal に "th" を加へて作る} \\ (2) \text{ The 5th of June—the を置く} \\ (3) \text{ Charles III—the third と読む} \\ (4) \frac{2}{3} - \text{two thirds, } \frac{1}{5} - \text{one fifth.} \end{array} \right.$

(j) Qualifying Adjective $\left\{ \begin{array}{l} (1) \text{ 性質状態を表はすもの—普通の Adjective 皆之れ、} \\ (2) \text{ Material Adjective.} \\ (3) \text{ Verbal Adjective.} \\ (4) \text{ Proper Adjective.} \end{array} \right.$

(k) Comparison $\left\{ \begin{array}{l} \text{Positive Degree.} \\ \text{Comparative Degree.} \\ \text{Superlative Degree.} \end{array} \right.$

(l) Comparative と Superlative の作り方

(1) $\left\{ \begin{array}{l} \text{1 syllable の語} \\ \text{2 syllables の或語} \end{array} \right\} = + \text{er, est.}$

(2) $\left\{ \begin{array}{l} \text{2 syllables の大抵} \\ \text{3 syllables 以上の語} \end{array} \right\} = + \text{more, most.}$

(3) Irregular の方法

(m) More, most が many, much の何れより來れる

かを知る法、

Many の後—Plural Noun 來り

Much の後—Singular Noun 來る

第五章

ARTICLE (冠詞)

第一節

Classes of Article (冠詞の種類)

(166) a, an, the の三つを ^{アーチクル}Article と云ふ

I saw *a* man with *an* ax.

The man went to my uncle's house and began to grind *the* ax.

上の例に見る如く a 又は an は或る人、一つの斧など云ふ時に用ひ、the は其人、其斧など云ふ、既に読者が直にそれと了解し得る如き場合に用ふ。

(167) かく a, an 又は the は同じ名詞の前に立つにしても甚しく其用法を異にする所から、各別の名をもつて居る。

^{インデファイニット}
a, an—Indefinite Article.

^{デファイニット}
the—Definite Article.

Indefinite とはまだ不定で明ならざるものに對して用ふ

る意にて、Definite とは一定して明白なる場合に用ふるの意である。

(168) a と an とは全然同一のもので有るが、aばかりでは詞の發音上に不便が有るから之を避けん爲に an なる語が出来たので有る。

即ち

{ a——は Consonant (子音) の前に
{ an——は Vowel (母音) の前に

用ふるに決まつて居る

{ a book, { an apple.
{ a pen, { an orange.

{ a big apple, { an easy book.
{ a man, { an old man.

{ a horse, { an hour.
{ a happy day, { an honest man.

{ a useful book.
{ such a one.

如何なる場合を問はず母音の語の前に限り an を用ふる約束なる故、

- (1) an apple けれど a big apple と變るは當然で有る、
- (2) 又 honest, hour の如く “h” の響かぬ時も an を附く、
- (3) a useful book の如く u が you と子音の發音となり、
又は o が such a one の如く wu と子音の發音になる時は an にあらず、a を用ふ

(169) 第一節の梗概

- (a) Article { Indefinite— a, an.
Definite—the.
- (b) { Indefinite—始めて { a—子音の前
出たる名詞の前 { an—母音及響かぬ h の前、
Definite—二度目からの名詞の前即ち讀者がそれと解し得る時、

第二節

Indefinite Article (不規則冠詞)

(170) Indefinite Articleには主なる用法が四つある

- (a) Singular Noun を以て或種類のもの全體を一般

に總稱するに用ふ、即ち a=any の意に用ふるので有る。

I like a dog. (=any dog)

の如く、一般に(どの犬でも)犬と云ふものが好きだと云ふ風用ふ、

- (b) a certain の意に用ふ—

I want a book. (=a certain)

An old man came to my house this morning.

(=a certain woman)

- (c) one の意に用ふ

I shall come in a day or two. (=one day)

There is a house on the top of the mountain.

(=one house)

- (d) Per (毎) の意に用ふ

He comes twice a week (毎週).

The ship sails 12 miles an hour (毎時間).

(171) a 又は an は一つと云ふ意味を有し、複数名詞の前に立つことはない、即 an apple, a book と云へど an apples, a books と云はず。

けれども good many, great many, dozen, few, hundred, thousand 等の語と共に熟字の如きものとなり、特に複数の Common noun に先つことが有る、即ち

a good many books, a great many houses, a dozen pencils, a thousand books. There are a few men.

(172) 其他 a 又は an は一般に Proper, Abstract, Material Noun には用ひず、単数の Common Noun と Collective Noun にのみ用ふるが適則で有る、即ち

a bird, a nation, と云へど a Tokyo, a life, a water, など云はぬが普通で有る。

(173) 第二節の梗概

(a) Indefinite Article の用法

(1) 或種類のもの全體を總稱する時即 a=any (どれも)の意に

(2) a=certain (或る)の意に

(3) a=one (一つ)の意に

(4) a=per (毎)の意に

(b) a, an は plural noun の前に用ひず

a great many books, a few horses 等の例外あり、

(c) Material, Abstract, Proper Noun の前に通常用ひず。

第三節

Definite Article (定冠詞)

(174) Definite Article には主なる用法二つあり

(a) 特別なるものを指す時

The color of this ink is black.

These are the best books in my library.

I have bought a book. The cover of the book is very soft.

上の例に見るが如く此 ink の色と云ひ、自分の圖書中の最良の書と云ひ、買った其本及其本の表紙と云ひ、此等は皆特別のものを指したのである、かくの如く讀む人が直にとれだと了解が出来る場合に the は用ふるので有る、此理によりて Superlative Degree の前には "the" を用ふるのである。

(b) Indefinite Article の如く Singular Noun にて或

種類のもの全體を表はす時

The horse is a noble animal.

The lion is called the king of beast.

の如く、馬なり獅子なりの全種類を總稱するに用ふ。

(175) 以上によりて全種類を表はす方法が三つ有ることゝなる

(a) *The fox is a cunning animal.*

(b) *A fox is a cunning animal.*

(c) *Foxes are cunning animals.*

之れは皆狐は狡猾な動物だと云ふ同じことを、各違つた形で表はしたに過ぎぬので有る。

(176) *In the morning, in the evening, in the afternoon, in the day time, in the light, in the dark.* の如き phrase には常に the を用ふ、但し *at noon, at midnight* の如きは然らず。

又 *Sun, moon, earth (地球) country (田舎)* の四には常に the を附することゝなつて居る。

(177) Plural となる Noun は勿論のこと、Material Noun も Abstract Noun も (a 又は an は取らねど) 特別の

場合には the は取ることを得るので有る。

(a) Abstract Noun の一般の場合と特別の場合

(Diligence is the mother of good fortune.)

勉強は幸福の母なり(一般の場合)

The diligence of this boy is well known.

此子の勉強家なることは名高い

(b) Material Noun の一般の場合と特別の場合

(I prefer meat to fish.)

魚よりも肉が好だ(一般の場合)

The meat I ate at supper was very hard.

今食つた肉は非常に堅かつた

Proper noun の場合は後節に於て更に詳しく述べることゝする

(178) 第三節の梗概

(a) Definite Article の用法

(1) 特別のものを指す時

(2) ものゝ全種類を表はす時

(b) 全種類を表はす三つの形

A dog is a faithful animal.

The dog is a faithful animal.

Dogs are faithful animals.

- (c) Sun, moon, earth (地球), country (田舎) の外常に “the” を附する phrase
- (d) Material, Abstract Noun にも “the” を用ふる ことあり
- (e) Superlative Degree の前に常に用ふ

第四節

Proper Nouns and Articles.

(固有名詞と冠詞)

(179) Indefinite Articles は Proper Noun と共に用ゐぬが普通なれど Proper Noun が Common Noun として用ひられた如き場合には此限りではない即ち nation, (國民) family (家族), sect (宗派) 等の一人たることを示す時——
a Japanese, an Englishman, a Christian, a Buddhist (佛教徒)

He is a Saito. (彼は齋藤と云ふ家の人)

(180) 一般の規則としては Proper Noun も “the” を取らぬが普通なれど次の場合は前に “the” を附けるが普通で有る。

- (a) Names of Rivers—The Nile, The Rhine, The Ishikari, The Shinano.
- (b) Names of Groups of Islands (群島の名)—The Kurile Islands (千島群島), The Philippines. (非律賓)
- (c) Names of Mountain Ranges (山脈)—The Himalayas, The Alps. 尤もこれは山脈に限り一つの山には Mount Fuji. の如く “the” を附けぬが普通で有る。
- (d) Names of Seas, Gulfs, Oceans, Straits. (洋海峡)—The Japan sea, The Pacific. (太平洋), The Atrantic (大西洋), The Gulf Pechili (直隸灣), The Tokyo Bay. (東京灣), The Strait of Bakan.
- (e) Names of Ships and Fleets (艦隊)—The Empress of China (支那皇后號), The Tenyo Maru, The Tsukuba, The First Squadron. (第一艦隊)
- (f) Names of Emperors and Empresses (皇帝及皇后)—The Emperor Napoleon, The Empress Jingo.

けれど King 及 Queen の名の前には “the” を用ひない。

(g) Names of Public Buildings or Institution. (公けの建物, 學校會社等) — The Tokyo Imperial University (東京帝國大學), The War Department (陸軍省), The Nishi Honganji, The Kabukiza.

(h) Names of Books and Journals (書籍及機關雜誌) — The Bible (聖書), The Nihon Gaishi, The Asahi Shinbun, The Yorodzu Choho, The Taiyo, The Shinshosetsu.

尤も Mencious (孟子) の如き人の名前の本になつたものは例外で有る。

(i) Names of Whole Nations, Families, Sects. (國民家族又は宗派全體) — The Japanese (日本全國民) The English (英國民), The Tokugawas (徳川一家), The Christians.

(j) Proper Noun の前に形容詞ある時 — The famous Napoleon, The famous Togo.

(181) 人名 Town(都會), Cape(岬) Country or Province

(國, 縣, 州) Lake(湖水) の名の前外、前述の Single mountain (一つの山) Single Island (一つの島) 及 Park (公園) の名の前には Articles を附けぬことになつて居る、

The United States of America は例外で有る、

(182) 第四節の梗概

(a) Nation, family, sect の一人を示す時は Proper Noun の前にも Indefinite Article を用ふ、

(b) 次の名の前には “the” を附ける

1. Rivers — the Nile.
2. Groups of Islands — The Loocho Isles (琉球), The Bonin Islands (小笠原諸島).
3. Mountain Ranges — The Alps.
4. Seas, Gulfs, Oceans, Straits — The Inland Sea (瀬戸内海) The Osaka Bay.
5. Ships, Fleets — The Tosamaru, The Standing Squadron. (常備艦隊)
6. Emperors, Empress — The Emperor Jinmu.
7. Public Building or Institution — The Tokyo

Higher Commercial School (東京高等商業

學校) The Kinki Kan (錦輝館)

8. Books, Journals—The Taiheiki, The Official Gazette. (官報)
9. Whole Nations, Families, Sects—The Japanese, The Chinese, The Mohammedans. (回教徒)
10. Proper Noun の前に Adjective ある時—The famous Hirose.

(c) 次の名の前には “the” を用ひず

1. Person (人)—Napoleon.
2. Town—Tokyo, Osaka.
3. Cape—Cape Kannon.
4. Country, Province—Japan, Shinano Province, (國) Nara Prefecture. (縣)
5. Lake—Lake Biwa.
6. Single Mountain—Mount Fuji.
7. Single Island—Ceylon, Sicily.
8. Park—Hibiya Park.

第五節

Omission of the Articles (冠詞の省略)

(183) 全種類を表はす時には “a” 又は “the” を附けるが普通なれど man 及 woman の二字に限りて Article を取らぬに決まつて居る。

Man is mortal. (人は死すべきもの)

Man is stronger than *woman*.

(184) 人を呼かける名詞の前に省く

Come *boys*.

Young *man*, you are a good boy.

(185) 又自分の家族の一人を指す時に省く

Mother (my mother) said *father* (my father) will soon be back.

即ち斯の如き時には必ず自分の家族を指すと決まつて居るので有る。

(186) Proper Noun に先つ所の title (稱號) 又は Profession (職業) の名の前に省く

Queen Victoria, Mayor of Tokyo (東京市長), Judge Ito (伊藤判事), Professor of Roman Law (羅馬法教授), General Teranoh (寺内大將), Premier Katsura (桂首相).

(187) Church, School, Market, Bed 等の語が本来の禮拜, 授業, 買物等の意に用ひられたる時

They are now at church. (お寺に詣つて居る)

School begins at 8 o'clock. (授業は八時から始まる)

He has gone to market. (買物に行つた)

Father is in bed. (父は休んでる)

(188) 次の如き phrase に省く

by land (陸路), by sea (海路), on foot (徒歩で), on horseback (乗馬で), by train (汽車で), at home (在宅), by name (名は, 名義上は), by day, by night, at sunset (日没に), at noon (正午に), at midnight (真夜中に), at dinner, at table (食事中), side by side (相並んで), day by day (日々).

(189) 現在から云ふ場合の時間を表はす, last (此前

の), next (此次の)の前に省く

I was in the country last month.

I shall call on you next Sunday.

けれど順番を表す the next boy の如き時、又は I was there the next day (其次の日に)の如き時は例外で有る。

(190) 二つの名詞が重つて and にて結ばれ同じ人又は物を表はす時は一方の Article を省く

Mr Mori is a soldier and author. (軍人兼著述家)

(191) 第五節の梗概

下の語の前に Article を省く

(a) 全種類を表はす man, woman.

(b) 呼かける Noun.

(c) 自分の家族の一人を表はす語。

(d) Proper Noun の前に在る title 又は profession の noun.

(e) Church school, market, bed 等の本来の意に用ひられた時。

(f) by land, at home, by name 等の如き phrase.

(g) 現在から云ふ“此前”“此次”の意の last, next.

(192) 第五章の梗概

- (a) Article... { Indefinite { a—子音の前
an—{母音の前
響かぬ h の前
Definite — the
- (b) Indefinite Article { 1. Singular の Common, Collective Noun. に限り用ふ
2. Plural Noun, Abstract, Material, Proper Noun. の前に普通用ひず
3. 一種類全體の總稱に— *A dog is a faithful animal.*
4. a certain (或る) の意味に— *A man called on me.*
5. one (一つ) の意に— *in a day or two.*
6. per (毎) の意に— *two miles an hour.*
1. 特別のものを指す時—
The color of my hat is gray.
The highest mountain (Superlative degree).

- (c) Definite Article の用法 { 2. 全種類を表す時—
The dog is a faithful animal.
3. Sun, moon, earth (地球) の外 in *the morning, in the evening, in the dark, in the country* 等に

(d) Proper Noun と Article

- I Indefinite Article を用ふ— nation, family, sect の一人を表す時。
— a Japanese, a Christian.
- II 次の名の前には Definite Article を用ふ
1. Rivers (川)
 2. Groups of islands (群島)
 3. Mountain ranges (山脈)
 4. Seas, gulfs, oceans, straits. (海, 灣, 大洋, 海峡)
 5. Ships, fleets (船, 艦隊)
 6. Emperors, empress. (皇帝, 皇后)
 7. Public institutions. (公けの建物, 學校, 會社)
 8. Books, journals (書籍, 新聞, 雜誌)

9. Whole nations, families, sects. (國民、家族、
宗派の全體)

10. Proper Noun の前に Adjective ある時

III 次の名の前には "The" を用ゐず

1. Person (人)
2. Town (都會)
3. Cape (岬)
4. Country, province (國、縣、州)
5. Lake (湖、沼)
6. Single mountain (一つの山)
7. Single island (一つの島)
8. Park (公園)

(e) Article を省く場合

1. 全種類を表はす Man, Woman の二語の前に
— *Man* is mortal.
2. 呼かける Noun に — *Come boys*.
3. 自分の家族を表す語に — *Father* is in bed.
4. Proper Noun の前に在る title, profession の
Noun に — *Governor Saito* (齋藤知事),

Professor Yamakawa (山川教授)

5. Church, school, market 等の語の原の意に用
ひられた時

He is at *school*. (登校中)

He is in *bed*. (臥床中)

6. by train, on foot, at noon 等の phrase に

7. “此前” “此次” の意の last, next に last
night, next morning.

第六章

ADVERB (副詞)

第一節

Classes of Adverbs (副詞の種類)

(193) 最初に述べたるが如く

(a) Birds sing *sweetly*.

(b) This boy is *very* clever.

の二つの文章に見るに (a) に於て *sweetly* は *sing* (働詞) の様子を、(b) に於ては *very* は *clever* (形容詞) なる度合を説明して居る、かくの如く働詞又は形容詞に添ひて之を *modify* 即ち形容するものを副詞と云ふ。

けれども

(c) The birds fly *very* *swiftly*.

に於ける *very* の如く、副詞は又他の副詞 (*swiftly*) を形容することが有る。

(194) 用法によりて下の三種に分つ

- 3 Classes { ^{シンプル} Simple Adverb (單副詞).
^{コンジャンクチャー} Conjunctive Adverb (接續副詞).
^{イントロガチャー} Interrogative Adverb (疑問副詞).

(195) Simple Adverb と云ふのは單に他の語を形容するのみのもの、

He speaks English *well*.

He works *very hard*.

に於ける *well*, *very*, *hard* 等の如きもの、一大抵の Adverb は皆此れで有る。

(196) Conjunctive Adverb と云ふのは

(1) This is the village *where* I was born.

(2) He was absent *when* I called him on.

の二文章に於ける *where* 及び *when* の如きものにて、他の語を形容すると共に文章中の二部分を結合するものを云ふ、即ち (1) に於ては *where* は生れた場所を示して *was born* と云ふ動詞を形容すると同時に、*this is the village* と云ふ部と *I was born* と云ふ部分とを連結し、又 (2) に於ては *when* は訪問した時刻を示して *called* を形容すると同時に、*he was absent* と云ふ部分と *I called*

him on と云ふ部分を連結する用をなし居れり、Conjunctive Adverb とは即ち連結をする Adverb の意なり。
—when, where, why, how 等。

(197) Interrogative Adverb とは

When do you go?

Why did you not go?

に於ける where 又は why の如き他の語を形容すると同時に疑問を發する詞を云ふ、此例に於て where は「何處へ」と行く所を尋ねて go を、why は「何故に」と理由を尋ねて等しく go を形容して居る。—when? where? how? why? 等。

(198) 又便宜上、副詞の意味の點より下の六種に分つことが出来る。

- | | | | |
|-----------|---|-----|---|
| 6 Classes | } | (a) | Adverbs of Time. |
| | | (b) | „ „ Place. |
| | | (c) | „ „ ^{デグリー} ^{クオンチチー} Degree or Quantity. |
| | | (d) | „ „ ^{マナー} ^{クオリチー} Manner or Quality. |
| | | (e) | „ „ ^{リーズン} ^{コーズ} ^{エフエクト} Reason, Cause and Effect. |
| | | (f) | „ „ ^{アフアーメーション} ^{ネグーション} Affirmation and Negation. |

(199) Adverbs of Time — 時刻を表はすものは皆此部類に屬し、When? (何時) と問をかけて見ると皆分るので有る — soon, now, then, before, after, already, always, somotimes, often, seldom, early, late, yet(まだ), still(尙)等。

(200) Adverbs of Place — 場所を示す詞は皆之に屬し、Where? (何處に) と問をかけて見れば皆分るので有る、— here, there, far, near, away 等。

(201) Adverbs of Degree or Quantity — Degree 即ち度合と Quantity (量) を表はすものは皆之に屬し、試に How much? (どれだけ) と問をかけて見れば皆之を知ることが出来る — much, little, enough, very, scarcely(殆んど), rather(寧ろ), so 等。

(202) Adverbs of Manner or Quality — 物の性質又は方法に關するものは皆此部類に屬するものであつて、How? (どんなに) と問をかけて見ると分るもの — how, thus, so, well, ill, の外 badly, hardly, commonly 等 ly の語尾を有つて居る副詞は大抵之に屬するので有る。

(203) Adverbs of Reason, Cause, and Effect — 讀んで字の如く理由原因及結果を示すものは皆之に屬す

る、*Why?* (何故) を以て問をかけて見る時は直に區別することか出来る、— therefore, ^{コンセクエントリー} consequently (夫れ故), ^{アコーアングリー} accordingly (従つて) 等。

(204) Adverbs of Affirmation and Negation —
^{アファーマーション} Affirmation 即ち然りと云ふ意味、及び ^{ネゲーション} Negation 即否と云ふ意味を表はすもの surely, indeed, really, truly, probably, perhaps, possibly, no, not, nay, never 等。

(205) 第一節の梗概

(a) Adverb — 動詞形容詞又は他の副詞に伴ひ之を形容するもの

(b) use (用法) によりて三種に分つ

{ Simple Adverb (單副詞)

{ Conjunctive Adverb (接續副詞)

{ Interrogative Adverb (疑問副詞)

(c) Simple Adverb — 單に他の詞を形容するもの、大抵の副詞は皆之れ、

(d) Conjunctive Adverb — 他の詞を modify すると同時に文章中の二部分を連結するもの

This is the house *where* I live in.

(e) Interrogative Adverb — 疑問を發するもの、

When will you go?

Why do you laugh?

(f) Meaning(意味)によりて六種に分つ

(1) Adverbs of Time (時を表すもの)

(2) „ „ Place (場所を表すもの)

(3) „ „ Degree or Quantity (度合或は量を表すもの)

(4) „ „ Manner or Quality (方法或は性質に關するもの)

(5) „ „ Reason, Cause and Effect (理由原因結果を表すもの)

(6) „ „ Affirmation and Negation (Yes 或は No の如きもの)

(g) 従つて副詞の判別法

{ *When?*

{ *Where?*

{ *How much?*

{ *How?*

Why?

Yes? or No?

此問を用ふる時は Adverb は皆判別することが出来る。

第二節

Comparison (比較法)

(206) Adjective と同じく Adverb にも Simple Adverb の中には ^{コンパライゼン} Comparison に従つて比較することの出来るものが有る。Degree は勿論形容詞と同じく

{ Positive Degree
 { Comparative ,,
 { Superlative ,,

の三つで有つて、之を作る方法も大抵形容詞の時と同様である。

(207) I. ^{レギュラー} Regular な場合— one syllable の副詞は語尾に er, est, を加へ、two syllables 以上の場合には more, most を前に添へて Comparative と Superlative とを作る。

Positive. Comparative. Superlative.

Fast	faster	fastest
Soon	sooner	soonest
Often	oftener	oftenest
Wisely	more wisely	most wisely
Bravely	more bravely	most bravely

ly にて終つて居る副詞は皆 2 syllables 以上なるを以て、従つて more, most を加へて作る。

(208) II. Irregular な場合—形容詞の時と同じく皆異つた詞によつて作る。

Pos.	Com.	Sup.
Well	better	best
Ill Badly	worse	worst
Much	more	most
Little	less	least
Far	farther	farthest
Forth	further	furthest
Late	later	{ latest last

(209) 第二節の梗概

(a) Comparison — adjective と同様 simple adverb 中には之を有するものあり。

(b) Regular form—

(1) one syllable の時 — 語尾に + er, est.

(2) two syllables の時 — 詞の前に more, most を添ふ

(c) Irregular form— 全く異りたる詞を用ふ、不規則なる八つの例を暗誦の必要あり

第三節

Uses of Adverbs (副詞の用法)

(210) YES と NO— 問は如何で有つても、全く其れに關係せず、答が affirmative 即 not を用ひぬ時には Yes を、negative 即 not を用ふる時ならば No を用ふるに決まつて居る。故に

Will you go? に對しても

{ Yes, I will go.
No, I will not go.

Will you not go? に對しても、同様に

{ Yes, I will go.
No, I will not go.

と云ふことが出来、問の文章が Affirmative であるか Negative で有るかには敢て關係ないので有る。

又 Have you ever seen a lion? に對しても

{ Yes, I have.
No, I never have.

Do you not know him? に對しても

{ Yes, I know.
No, I do not.

(210) THERE — 下の例に於けるが如く

(a) There are a great many schools in Tokyo.

(b) There is only one school in the village.

(c) There were many people there.

there is, there are, there were, 等の句に於ける there は、組織上必要缺くへからざるものなれども、之を日本語に譯することの出来ぬもので有る、之を譯して「其處に」と云ふは誤りにて、單に文章の絲口を立てる爲に用ひた

ものなるゆゑ、「其處に」の意味を示さんとせば(c)の例に見るが如く、別に今一つ **there** を加へなければならぬ。必ず **there is** 等の **there** を日本語に譯してはならぬ。

(212) **LITTLE** と **A LITTLE** — この區別は形容詞の場合の區別と同じく、**little** は少ないと「無き方」に重きを置き、**a little** は少しは有ると「有る方」に重きを置いたもので有る。即ち

(a) We were *little* surprised.

(b) We were *a little* surprised.

(a) に於ては **little** は殆んど打消の意となり、殆んど驚かなかつたと云ふ意を示し、

(b) に於ては少し許りは驚いたと云ふ意を示すなり。

(213) **HARDLY**, **SCARCELY**, 共に「辛うじて」又は「殆んど」と譯せど實際は **not** と同様に取扱つて差支ない。

We can *hardly* believe it.

殆んど信することが出来ぬ

He could *scarcely* do it.

殆んど出来なかつた位だ

(214) **SELDOM**, **RARELY** — 共に稀にの意なれど又 **not** の意を含む。

He *rarely* gets any.

滅多に何にも手に入らぬ

Seldom she comes.

滅多に来ぬ

(215) **SINCE** —

It is already five years **since** I saw you last.

I have been absent for a few days **since** you

Called on me last.

此用法は茲に説明しがたけれど **since** を“時”を表はす **Conjunctive Adverb** として用ふる時は、**since** の附屬する部分には過去と云ふ動詞の形を用ひ、一方の句の動詞は **is** 又は **have been** 等の二つの形を用ふるに定まつ居る。

(216) **SINCE**, **AGO**, **BEFORE** — **Since** は又 **ago** と同じく“以前”の意味に用ふる事が有る。

I saw him a week *ago* (*since*).

此時は決して **before** を用ふる事なし、けれども非常に

昔のことを云ふ時は since よりも ago を用ふ

Twenty years ago. A century ago.

Before は二つの過去の事を語る時に用ふ、

When I told it to him yesterday, he said that he had heard it a few days before.

此時の before は before that time の意で有る、従つて

He was here before.

と云ふ時は before now の意に用ひたものである。

(217) TOO —

I am too hungry to say any word.

物も答へぬほど腹が空いてる。

He was too good to do so.

左様することの出来ぬ程の善人で有つた

too の後に to..... の形を用ひた時は前の too は「程」to.....

は、「何々すること出来ぬ」と云ふ意に取らなければならぬ、従つて too には始から not の意が添ふて居ると見なければならぬ。

(218) 第三節の梗概

(a) Yes と No 一問に關係せず、答に not を用ひぬ

時は yes, not を用ふる時は no.

Yes, I will go.

No, I will not go.

(b) There is, there are の there は無意味なれば譯

すべからず、「其處に」の意を表はさんとする時は

別に there を一つ加ふ

There is a dog. (犬が居る)

There is a dog there. (其處に犬が居る)

(c) 形容詞の時と同じく

A little (少しは有ると、あるに重きを置く)

little (少ないとなきに重きを置く、従つて殆んど

not の意)

(d) Hardly, scarcely 殆んど無いの意

(e) Seldom, rarely 滅多に無いの意

(f) Since — 時を表はす Conjunctive Adverb とし

ての二例、

(g) Since, ago, before —

I saw him a week ago (since). Twenty five years

ago. (非常な昔の意の時は ago に限る)

{ The train had started *before* I got the station.
 (通常二つの時について云ふ時用ふ)
 { I was here *before*. (今より前の意)

(i) Too ... to = 何々すること出来ぬ程

He was *too* strong *to* be defeated.

(負さること出来ぬ程強かった)

(219) 第六章の梗概

(a) Adverb — 動詞形容詞又は他の副詞に添ひ之を形容するもの

(b) Classes { Use (用法) より三つに分つ
 { Meaning (意味) より六つに分つ

(c) Use { Simple Ad. — 單に他の詞を形容す
 { Conjunctive Ad. — 他の詞を形容すると同時に文章中の二部を連結す
 { Interrogative Ad. — 疑問を發するもの

- I. Ad. of Time.
- 2. „ „ Place.

(d) Meaning { 3. Ad. of Degree or Quantity.
 { 4. „ „ Manner or Quality.
 { 5. „ „ Reason Cause and Effect.
 { 6. „ „ Affirmation and Negation.

(e) Meaning によりて分つ副詞の判別法

下の問をかけて見る

- 1. When?
- 2. Where?
- 3. How much?
- 4. How?
- 5. Why?
- 6. Yes? or No?

(f) Comprison — Adjective 同様 Simple Adverb 中にあるものあり

(g) I Regular —

- (1) One syllable の時 — 語尾 + *er, est.*
- (2) Two syllables の時 — 詞の前に + *more, most.*

II Irregular — 全く異りたる詞を用ふ

(h) Yes と No —

Yes, I go.

No, I do not go.

(i) There is, there are, の there 無意味

(j) a little と little. (形容詞の時に同じ)

(k) Hardly, scarcely — 殆んどない意

(l) Seldom, rarely 滅多にない意

(m) Too.....to は「.....すること出来ぬ程」と譯す

第七章

CONJUNCTION (接續詞)

第一節

Classes of Conjunction (接續詞の種類)

(200) 詞と詞、熟字 (Phrase) と熟字、句 (Clause) と句又は文章と文章等を連結するものを ^{コンジャンクション} Conjunction と云ふのであるが、共に連結せらるゝものゝ文法上同じ階級なるか、異りたる階級のものなるかに従つて下の二種に分つ。

2 Classes $\left\{ \begin{array}{l} \text{コ オーディネート} \\ \text{Co-ordinate Conjunction.} \\ \text{サブ オーディネート} \\ \text{Sub-ordinate Conjunction.} \end{array} \right.$

(221) Co-ordinate Conjunction — 連結せらるゝものが同一階級のものなる時

(a) He is a statesman *and* a general.

(b) I have to go to Kyoto *or* to Osaka.

(c) Mather is sick, *but* I will go.

(d) I am quite well, *so* I will go.

上の例に於て (a) の *and* は何れも Subjective complement なる *statesman* と *general* を結び、(b) の *or* は又同じ *go* を形容する *to Kyoto* 或は *Osaka* を結び、(c) の *but* は *mather is sick* と、同じく獨立し得べき *I will go* と云ふ文章を連結し、(d) の *so* も同様に同じ獨立したる文章 *I am quite well* と *I will go* とを連結す、斯の如く同じ階級に屬するものを連結するのが此接續詞の働なり。— 主なるもの *and, also, or, else, but, so, however, then, therefore, not only...but also, both...and, as well as, either or, neither nor* 等。

(222) **Sub-ordinate Conjunction** — 前と異なりて同階級に非ざるものを連結するもの

(a) I shall go *if* it is fine.

(b) I do not know *that* he will come.

(c) I know *when* he will start.

上の例にて、(a) に於ける *if* 以下の部分は獨立しては立派な意味を成すこと能はず、*I shall go* ありて始めて其意味全く、(b) に於ける *that* も *that he will come* と云ふ自ら獨立するこ能とはざる部を *I do not know* の部分

に結び、(c) に於ても *when* は *when he will start* と云ふ、意味に於て自ら獨立して立派な文章をなすこと能はざる部分を *I know* と云ふ部に連結して居る、かくの如く自分丈にては立派に獨立して意味をなすこと能はざる即從屬的の文章を、立派に獨立し得る部分に連結するものを **Sub-ordinate Conjunction** と云ふ、— 主なるものは *that, if, whether, when, while, as, before, after, till, untill, since, where, because, for, though, although, in order that, so as, as as, so that, as soon as, as if, such that* 等。

(223) **Correlative Conjunction** — 上に擧げた *both and, either or, neither nor, whether or, not only...but also, as as, so as* 等の如く立派に一對をなしたものに附した名で有つた、其 **Co-ordinate** たると **Sub-ordinate** たるには少しも關する所なし。

(224) 第一節の梗概

(a) 2 Classes {
 Co-ordinate — 文法上同じ階級の語句を連結するもの
 Sub-ordinate — 異なる階級の語句を連結するもの

- (b) Correlative Conjunction — 兩種何れに屬するを問はず一對をなせるものに附けた名なり。

第二節

Uses of Conjunctions (接續詞の用法)

- (225) AS.....AS, SO.....AS —
- (a) He is *as* strong *as* his brother (is strong).
- (b) He is **not** *so* strong *as* his brother (is strong).
- As...as (a) の如く not のない文章に
So...as は (b) の如く not のある文章に用ふ。
- (226) AS — 通常 *because, for* の如く理由を示すに用ふれど (a)、又 (b) の如く *though* と同じ意に用ふることあり、尤も此場合には其前に Adjective, Adverb 又は Verb 等が有るに定まつて居る。
- (a) *As* I am not yet quite well, I will not go.
全快せぬから行くまい。
- (b) Fine *as* it is, it is pretty cold.
天気はいゝが可成に寒い。

- (227) SINCE — Conjunction としての *since* は Adverb のと異り、動詞には何の制限も與へず、唯 *because* や *for* と同様で有る。

Since your father said so, I believe it.

(228) 第二節の梗概

- (a) As.....as — not なき文に用ふ
(b) So.....as — 否定即 not ある文に用ふ
(c) As..... 通常 *because* や *for* と同じく用ふれど、形容詞副詞などの後に *though* の意に用ふることあり。

(229) 第七章の梗概

- (a) Conjunction — 詞と詞、句と句、文と文等を連結するもの
(b) 連結さるゝものゝ文法上の階級によりて二種に分つ
(c) { Co-ordinate — 左右同一階級のとき
Subordinate — 左右異りたる階級のとき
(d) As.....as — 肯定の文に
(e) So.....as — 否定の文に
(f) Since — *for, because* と同意に用ふ
(g) As — 通常 *for, because* と同じく用ふ、形容詞副詞の後に *though* の意に

第八章

INTERJECTION (間投詞)

(230) ^{インタージェクション} Interjection—間投詞又は歎詞と云ひ、喜怒哀樂等の感情を表はすのみにて文法上他の語と何の関係なきものを云ふ。即

O! (強き感情を表す)

Oh! (驚きを表す)

Alas! (悲を表す)

Ha! ha! (笑ふ時)

Hurrah! (喜ぶ時)

Hallo! (電話に於ける「もし、もし」の如く呼かける時)

新釋英文法の覚え方 上巻終

明治四拾四年三月十日印刷

明治四拾四年三月十三日發行

著者 若月保治

東京市本郷區森川町壹番地
發行者 貞金近松

東京市本所區番場町四番地
印刷者 守岡功

東京市本所區番場町四番地
印刷所 凸版印刷本所分工場
株式會社



新釋英文法の覚え方

正價金三十五錢

發兌

東京市本郷區
森川町壹番地

文成社

電話下谷三〇一一番
電話下谷三二一〇番

文成社出版書目

○故三條實美公題字○伯爵大隈重信君序
 ○子爵秋元與朝君序○男爵肝付中將題字
 ○故博士梅謙次郎君序○正六位岡谷繁實翁著

拾五版

名將言行錄

菊判總クローヌ金文字入
 頗美本紙數貳千參百餘頁
 原本七拾卷合本四冊函入
 正價六圓送料內地參拾錢

本書は夙に上流人士の間に好評噴々たりしも世人一般に廣く知られざりしが世界的の
 巨人故伊藤公の愛讀書たりし事各新聞に掲載せられてより一本を得んと渴望する者頗
 る多し、宜なる哉、本書は實に教訓に富み、趣味に富める古今の名著なりしも、版本は
 杜絶して今や求むべからず、本社幸に著者の囑託に依り爰に翻刻美裝して江湖に薦む

所 捌 賣 大

弘前市土手町	今泉書店
久留米市米屋町	菊竹金文堂
名古屋市西區本町三丁目	川瀨書店
京都市二條通河原町	寶文館
大阪市東區北渡邊町	杉本書店
同 日本橋區吳服町	北隆館
同 京橋區中橋通廣小路	前川文榮閣
同 神田區錦町二丁目	二松堂
同 京橋區尾張町	東海堂
同 京橋區西紺屋町	良明堂
同 本郷區森川町	有終閣
東京市神田區表神保町	東京堂

米國 マーデン氏著
文學士 藤井點花君譯
小杉未醒畫伯挿畫

好評

偉人と修養

四六判美本
正價四拾五錢
送料六錢

何人と雖も修養に依て必ず偉人と成り得べし

文學士 吉九一昌先生編

好評

修養夜話

菊半裁
正價三拾錢
送料不要

本書は大町桂月國府雇東氏を始め現代知名諸士の講演集なり

明治大學講師 文學士 内海弘藏先生新著

忽ち四版

文章十講

▽四六判六百頁 正價金壹圓廿錢 送料拾貳錢
上製頗美本

本書に依りて文章學は
始めて大成せられたり

本書は文章學の大家内海先生が多年の經驗と苦心とに基き文章學を大成し簡より繁に、初等より高等に、第一講より第十講迄を講義體に解説せり。故に文章の上達を希ふ者は本書に依るを以て最も捷徑なりとす。

再版

青年と禪

文學博士井上哲次郎先生序
東亞之光記者秋山悟庵先生著

四六判美本
正價五拾錢
送料六錢

好評

青年の處世と成功

文學士 高木武先生著

四六判美本
正價卅五錢
送料四錢

好評

立志寶鑑

貴族院議員關清英君序 帝國青年教育會著

四六判美本
正價卅五錢
送料四錢

三版

新式作文辭典

文學博士芳賀矢一先生序

文學士 高木野鍾 武共編

本書を手にすれば字句の選定は立所になる

四六判四百五拾頁
總價九拾錢
正價八錢
送料八錢

拾壹版

手紙と葉書

東京高等商業學校習字教授 稻川雲谿先生書

横帖リボン綴じ
正價四拾錢
送料四錢

渡邊萬藏先生著

版拾

手紙の作り方

送正四
料價六
四三判
拾洋
錢錢裝

文學士 堀田相爾先生序 帝國青年教育會著

版三

文章の作り方

送正四
料價六
四參判
拾洋
錢錢裝

文學士 高木武先生著

版再

論文の作り方

送正四
料價六
四參判
拾洋
錢錢裝

文學士 堀田相爾先生著

刊新

中等學科勉強法

送正四
料價六
四卅判
五洋
錢錢裝

文學士 大町桂月先生序 中學世界記者岡本學君著

版再

修學便覽

一名遊學
案內

送正四
料價六
四拾判
五洋
錢錢裝

文學士 高木武先生著

評好

金聲玉言

送正四
料價六
四拾判
五洋
錢錢裝

文學士 沼波瓊音先生著

再版 俳句の作り方

送正四 價六判 料卅五洋 四錢裝

内藤鳴雪翁題句 寒川鼠骨先生著

再版 贈答俳句集 並作法に

送正四 價六判 料五拾 頗美本 六錢

文學士 沼波瓊音先生編(俳味文庫第一編)

好評 短評俳句選

送正菊 價廿半 料不七 裁 要錢

文學士 武島羽衣先生閱 島崎末平君著

再版 和歌の作り方

送正四 價六判 料三十洋 四錢裝

正三位 犬養木堂先生題字 貞金鐵洲著

三版 文字の書き方

送正寫四 價六判 料眞美本 卅五版 少女執筆 四錢入 録

文學士 若月紫蘭先生著 (初等英文叢書第一編)

再版 英文手紙の書き方

送正四 價六判 料卅五洋 四錢裝

福本日南先生閣
小野鐘山君譯

菊判參百頁
洋裝頗美本

正價金壹圓

送料
拾貳錢

新刊 和譯 **宋名臣言行錄**

柴田馨君立案 李左衛門君記

新刊 忠勇 **相馬大作** 前編

▽菊判四百頁餘 正價金八拾錢 送料
頗美本

好評

明治新題句集

六花、碧童先生題句 富取芳河士先生編 (俳味文庫第二編)

菊判 正價廿七錢 送料不要

好評

三紀行

~~~~~  
秋田の山水  
お伊勢参り

文學士 沼波瓊音先生著 齋藤松洲畫伯裝禎

四六判 正價五拾錢 送料六錢

好評

**文學錦囊**

文學士 高木武先生編

四六版クロス美本 正價九拾錢 送料四錢



山路愛山先生序 有本天浪先生著

再版

# 古武士の面影

四六版洋装頗る美本  
正 價 參 拾 錢  
送 料 四 錢

有本天浪先生著

好評

# 小説 逆まく波

四六版洋装美本  
正 價 四 拾 五 錢  
送 料 六 錢

泉斜汀先生著 小杉未醒畫伯挿畫

好評

# 帝大 氣質

四六判美本  
正 價 五 拾 錢  
送 料 六 錢

岡谷繁實先生著

# 南朝の元勳

忽ち三版

▼ 菊判三百八十頁 上製類美本 正價壹圓廿錢

送 拾 錢 料

本書は岡谷繁實先生が例の犀利なる史眼と明快なる文章とを以て護良親王楠正成等南朝の忠臣九士の事蹟を詳述せられたるものなれば一讀以て興味ある中古の史實を知ると共に芳烈無比なる大和魂の磅礴たるを窺ふに足るべく絶代の快文字なり



|                                                       |                                                                                   |                                                                                  |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| <p>評好</p> <p>實用女手紙</p>                                | <p>評好</p> <p>特許繪畫速成練習帖</p>                                                        | <p>評好</p> <p>新式商業簿記講義</p>                                                        |
| <p>小野鷲堂先生書</p> <p>和綴り美本</p> <p>正價五拾五錢</p> <p>送料四錢</p> | <p>川端玉章先生 鈴木華邨先生外數大家執筆</p> <p>半紙版石版印刷</p> <p>頗る美麗製本</p> <p>正價七拾五錢</p> <p>送料八錢</p> | <p>商學士 伊藤述史先生序 帝國商業學會編</p> <p>大版總字口入</p> <p>正文七拾五錢</p> <p>正價八拾五錢</p> <p>送料八錢</p> |

|                                                           |                                                     |                                                     |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| <p>月刊雜誌</p> <p>俳味</p> <p>文學士 沼波瓊音先生主筆</p> <p>發行日 每月十五</p> | <p>再版</p> <p>書簡文習字帖</p> <p>高等商業學校習字教授 稻川雲谿先生書</p>   | <p>再版</p> <p>日用書鑒</p> <p>玉木愛石先生書</p>                |
| <p>壹部定價八錢</p> <p>送料五厘</p>                                 | <p>折價參拾五錢</p> <p>送料四錢</p> <p>折價參拾五錢</p> <p>送料四錢</p> | <p>折價參拾五錢</p> <p>送料四錢</p> <p>折價參拾五錢</p> <p>送料四錢</p> |



初等英文叢書

第一編

英文手紙の書き方

既刊

◎文學士 若月紫蘭先生著

各編一冊  
三拾五錢  
送料四錢

第三編

英語手ほどき

近刊



